

第7回淑徳大学学生生活 実態調査報告書



2017年11月

淑 徳 大 学

刊 行 に あ た っ て

淑徳大学では、「自己点検・評価の一環として、淑徳大学に学ぶ学生諸君が、日頃本学の教育等に対してどのように考え、どのような学生生活を送っているか等を把握し、今後の淑徳大学のあり方を考えるうえでの基礎データを収集すること」を目的として、1993年に第1回学生生活実態調査を実施しました。その後4年に1回、すなわち、1997年、2001年、2005年、2009年、2013年と6回の調査を重ね、今年2017年に第7回調査を実施し、ここに報告書を刊行するに至りました。

今回の調査対象は、4つのキャンパス、7つの学部、12の学科に在籍するすべての学生諸君であります。つまり、開設4年目の東京キャンパス人文学部の表現学科、歴史学科の学生諸君への調査は今回が初めてということになります。調査方法は、従来の紙ベースの調査票ではなく、S-Naviを用いたウェブ上での調査を採用しました。調査時期は、年度の前半とし、速やかに集計して、後期には報告書の刊行に至りました。

なお、前回調査時に比較して、本調査以外にも、学生諸君の教育評価の機会が格段に増えました。今年度本学が公表したいわゆる「3つの方針」のうちのカリキュラム・ポリシーには次のような教育評価が明示されています。すなわち、個々の授業内容、授業方法の改善のために授業評価アンケートを実施し、また、学修支援のために定期的に授業時間以外の学修状況や学修行動に関する調査を行うようになっています。

このように、教育評価の機会は増えてきましたが、学生生活の全体像を掘り下げて全学の学生諸君を対象に調査する機会は、この学生生活実態調査を除いてはありません。今回も、大学生生活の状況、大学生生活の悩み、学生生活への満足度、要望・意見を含んだ大学への評価等々、学生生活全般についての具体的なデータを得ることができました。本書は、その貴重なデータを分析・整理して、教職員や学生諸君、広く学外に公開するものです。

ことに、私たち教職員は、今後、示された学生諸君の生活の実態や要望に即した改善・改革の具体策を検討しなければなりません。可能なところから順次着手し、学生サービスのいっそうの向上に努める所存であります。

結びになりますが、今回の学生生活実態調査にご協力いただいた学生の皆さんに心より厚く御礼申し上げます。また、第7回学生生活実態調査実行委員会の皆さんには、多大のご尽力をいただきました。心より感謝いたす次第であります。

学 長 磯 岡 哲 也

目 次

I. 調査の概要

(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象	1
(3) 調査の方法及び実施期間	2
(4) 有効回答率	2

II. 調査結果

(1) 志望の状況	5
(2) アルバイトの実施状況	8
(3) 情報端末の所持状況	14
(4) 日常生活の習慣や傾向	16
(5) 友人関係及び教職員との関係	18
(6) ハラスメントの相談窓口	21
(7) 教育環境の満足度	22
(8) 淑徳大学への評価	33
(9) 全体的な評価	35

III. 「第7回淑徳大学学生生活実態調査」調査票	37
---------------------------------	----

I. 調査の概要

I. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、自己点検・評価の一環として、学部生が日頃本学の教育等に対してどのように考え、どのような学生生活を送っているか等を把握し、今後の淑徳大学（以下、本学とする）のあり方を考える上での基礎データを収集することを目的とする。

(2) 調査対象

平成29年6月15日現在で、総合福祉学部、国際コミュニケーション学部、看護栄養学部、コミュニティ政策学部、経営学部、教育学部、人文学部に在学する、休学者を除く全学生を対象とした。対象者は、4,611名であった。（表I-1-1）

なお、国際コミュニケーション学部の経営コミュニケーション学科と人間環境学科は募集停止となり、平成24年4月に経営学部、平成25年4月に教育学部の開設をした。そのため、国際コミュニケーション学部の在校生は、文化コミュニケーション学科の4年次以上のみである。調査の結果の統計上は、人数の少ない国際コミュニケーション学部の学生は、経営学部経営学科へ数値を算入して統合した上で掲載することとした。

表 I - 1 - 1 在学学生数

（平成29年6月15日現在）

	総 合 福 祉 学 部				看 護 栄 養 学 部			コミュニティ政策学部
	社会福祉学 科	教育福祉学 科	実践心理学 科	学部計	看護学科	栄養学科	学部計	コミュニティ政策学科／学部計
1 年次	198	151	99	448	105	83	188	117
2 年次	209	171	114	494	110	90	200	127
3 年次	187	168	88	443	103	73	176	76
4 年次	208	145	97	450	107	66	173	97
計	802	635	398	1,835	425	312	737	417

	国際コミュニケーション学部	経 営 学 部			教育学部	人 文 学 部			大学計
	文化コミュニケーション学科／学部計	経営学科	観光経営学 科	学部計	こども教育学科／学部計	表現学科	歴史学科	学部計	
1 年次	0	135	108	243	106	62	41	103	1,205
2 年次	0	96	89	185	102	58	40	98	1,206
3 年次	0	94	75	169	119	75	46	121	1,104
4 年次	5	84	62	146	110	69	46	115	1,096
計	5	409	334	743	437	264	173	437	4,611

(3) 調査の方法及び実施期間

調査は、学内システムであるS-Navi（アンケート機能）を使用し、インターネット調査により実施した。したがって、回答と回収が同時に行われるシステムである。

実施に際しては、複数回にわたるS-Naviの配信、学内へのポスター掲示による依頼や授業時に教員からの口頭による依頼を行い回答率の向上に努めた。全学部の1年次のみは、必修科目である「情報処理」等の授業において、担当教員から回答を促した。

実施期間は、平成29年6月15日（木）9：00から平成29年7月13日（木）23：59までの期間とした。

(4) 有効回答率

今回の回答者数は、総合福祉学部1,538人、国際コミュニケーション学部4人（回答は、経営学部統合して統計上処理）、看護栄養学部637人、コミュニティ政策学部283人、経営学部563人、教育学部379人、人文学部348人であった。全体で3,752人の回答があった。

有効回答率は、総合福祉学部83.8%、国際コミュニケーション学部80.0%、看護栄養学部86.4%、コミュニティ政策学部67.9%、経営学部75.8%、教育学部86.7%、人文学部79.6%であった。全体の有効回答率は、81.4%であった。（表I－1－2）

大学全体を学年別にみると1年次91.4%、2年次81.9%、3年次82.8%、4年次68.3%となっている。2、3年次だけは差は小さいものの逆転しているが上位学年になるほど回答率が低下している。学部別の学年をみると総合福祉学部では、1年次93.5%、2年次84.8%、3年次84.4%、4年次72.4%となっている。国際コミュニケーション学部では、4年次のみで80.0%、看護栄養学部1年次84.6%、2年次90.5%、3年次90.9%、4年次79.2%、コミュニティ政策学部では、1年次88.9%、2年次59.1%、3年次69.7%、4年次52.6%、経営学部では、1年次92.2%、2年次73.5%、3年次68.6%、4年次59.6%、教育学部では、1年次92.5%、2年次95.1%、3年次95.0%、4年次64.5%、人文学部では、1年次94.2%、2年次81.6%、3年次81.0%、4年次63.5%であった。

どの学部の1年次も授業時間内に回答する時間を設けたため、高率な回答率となっている。回答率の低い学年は、全学年を過不足無くカバーする科目がないため、授業内で教員からの依頼ができず実施の周知が十分に徹底されにくいことが影響していると考えられる。

前回（平成26年実施）の調査時に人文学部は、開学間もなくアンケート調査が未実施のために比較できないがコミュニティ政策学部と教育学部全体のみ回答率が低下している。大学全体では、72.2%から81.4%と10.0%近く回答率が増加した。今回からこれまでの対面において自記式質問紙票を配布して調査する方法からパソコンを利用したものに変更したが回答率は向上した結果となった。

表 I - 1 - 2 有効回答率

	総 合 福 祉 学 部				看 護 栄 養 学 部			コミュニティ 政策学部
	社会福祉 学 科	教育福祉 学 科	実践心理 学 科	学部計	看護学科	栄養学科	学部計	コミュニティ 政策学科／ 学部計
1 年次	90.9%	99.3%	89.9%	93.5%	77.1%	94.0%	84.6%	88.9%
2 年次	86.1%	87.7%	78.1%	84.8%	97.3%	82.2%	90.5%	59.1%
3 年次	88.2%	82.7%	79.5%	84.4%	94.2%	86.3%	90.9%	69.7%
4 年次	69.7%	77.9%	70.1%	72.4%	71.0%	92.4%	79.2%	52.6%
計	83.5%	86.9%	79.4%	83.8%	84.9%	88.5%	86.4%	67.9%

	国際コミュニ ケーション 学部	経 営 学 部			教育学部	人 文 学 部			大学計
	文化コミュニ ケーション 学科／学部計	経営学科	観光経営 学 科	学部計	こども教育 学科／学部計	表現学科	歴史学科	学部計	
1 年次	—	89.6%	95.4%	92.2%	92.5%	90.3%	100.0%	94.2%	91.4%
2 年次	—	69.8%	77.5%	73.5%	95.1%	79.3%	85.0%	81.6%	81.9%
3 年次	—	69.1%	68.0%	68.6%	95.0%	77.3%	87.0%	81.0%	82.8%
4 年次	80.0%	64.3%	53.2%	59.6%	64.5%	53.6%	78.3%	63.5%	68.3%
計	80.0%	75.1%	76.6%	75.8%	86.7%	74.6%	87.3%	79.6%	81.4%

II. 調查結果

Ⅱ. 調査結果

(1) 志望の状況

本学を選んだ理由は専門的な勉強をしたいが1位

1) 淑徳大学を選んだ動機（複数回答可）

淑徳大学を選んだ動機について、「その他」を含む18の選択肢を提示し、回答を得た。

大学全体の傾向をみると、「所属する学科・コースの専門的な勉強をしたかった」57.0%、「免許や資格を取得できると思った」48.8%、「将来つきたい仕事に必要な勉強がしたかった」46.5%が上位3位となる。

およそ50.0%の学生が、「専門的な勉強をし、免許や資格を取得すること」によって、「希望通りに就職する」ために本学を選んだ、と回答している。これは、前回（第6回）の調査結果と変わらない。また、4位～10位をみると、「自宅から通学できる」32.7%、「自分の勉強したい科目がある」28.5%、「オープンキャンパスに参加し、印象が良かった」24.4%、「自分の学力に合っていた」16.1%、「実践的・実学的な教育方法に魅力を感じた」15.0%、「高校や予備校の先生にすすめられた」13.4%、「キャンパスの施設、設備が気に入った」11.0%であり、10.0%～30.0%ほどの学生が、「自宅から通えて、学びたい学科がある」、「オープンキャンパスでの印象が良かった」、と回答している。11位から18位では、「就職率が高い、もしくは就職先が良い」、「家族や親類にすすめられた」、「専門以外の科目も勉強できると思った」、「サークル活動や課外講座に魅力を感じた」、「友人や先輩にすすめられた」、「伝統や建学の精神に魅力を感じた」、「海外留学・研修に魅力を感じた」であり、これらの項目における選択率は10.0%未満である。問い自体が「本学を選んだ動機」であるので、本学が受験生に対してどのような情報を発信し、受験生がどの情報に反応しているかが、的確に反映されている。（図1-1、1-2）

学部別にみると「所属する学科・コースの専門的な勉強をしたかった」が1位になった学部は、総合福祉学部・看護栄養学部・経営学部・教育学部・人文学部である。

「自宅から通学できる」が1位になった学部は、コミュニティ政策学部である。

2位以下では、「免許や資格を取得できると思った」、「将来つきたい仕事に必要な勉強がしたかった」、「自宅から通学できる」、「自分の勉強したい科目がある」、「オープンキャンパスに参加し、印象が良かった」がどの学部においても多数を占めており、大学全体の傾向とほぼ同様である。（図1-2）

図にはないが「その他」は5.4%であり、自由記述として、「学びたい学科があった」・「自宅から近い」・「指定校推薦で受験できた」・「入りたい部活があった」・「滑り止め」等の回答が目立った。

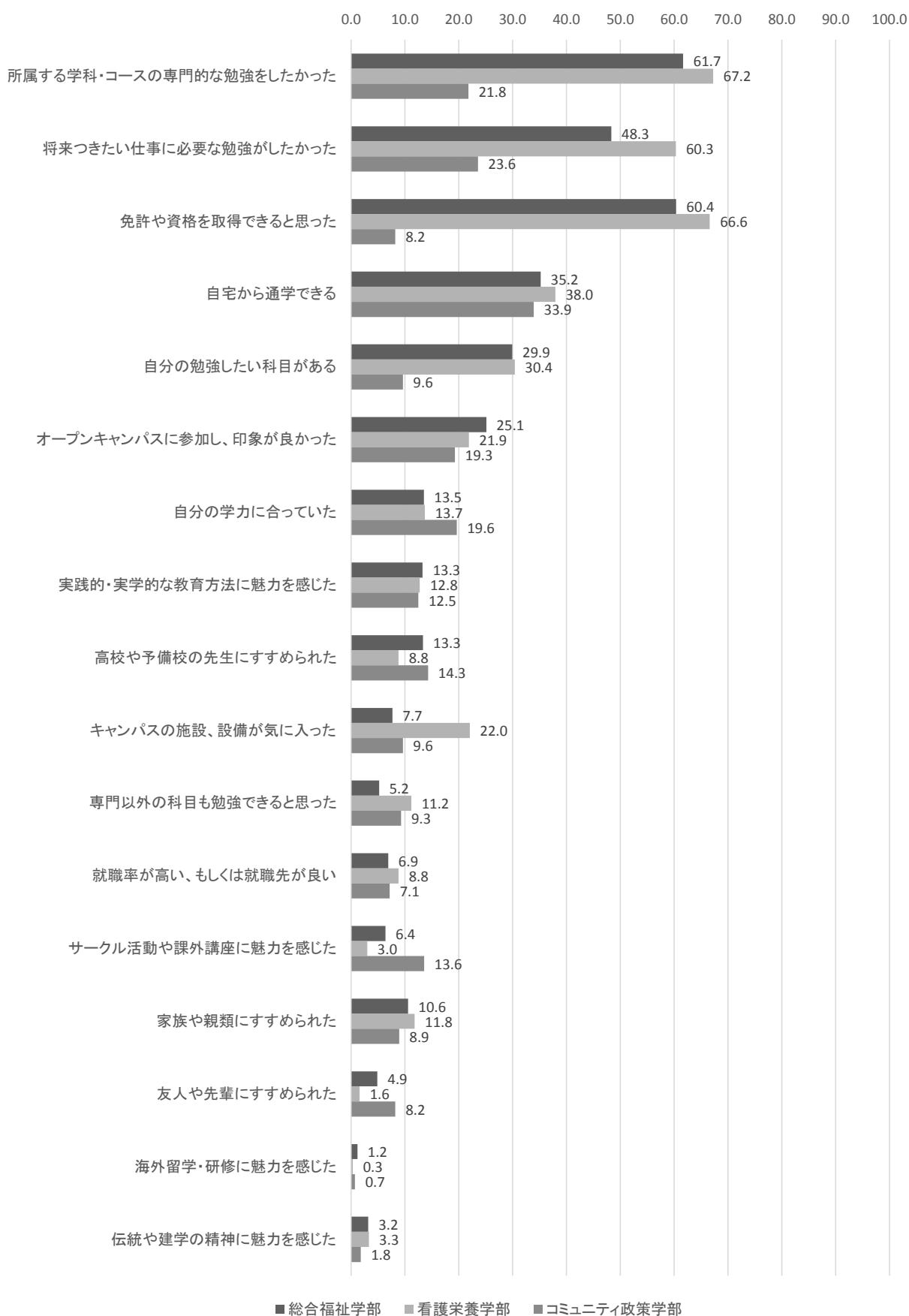


図 1 - 1 淑徳大学を選んだ動機（複数回答％）千葉・第二キャンパス

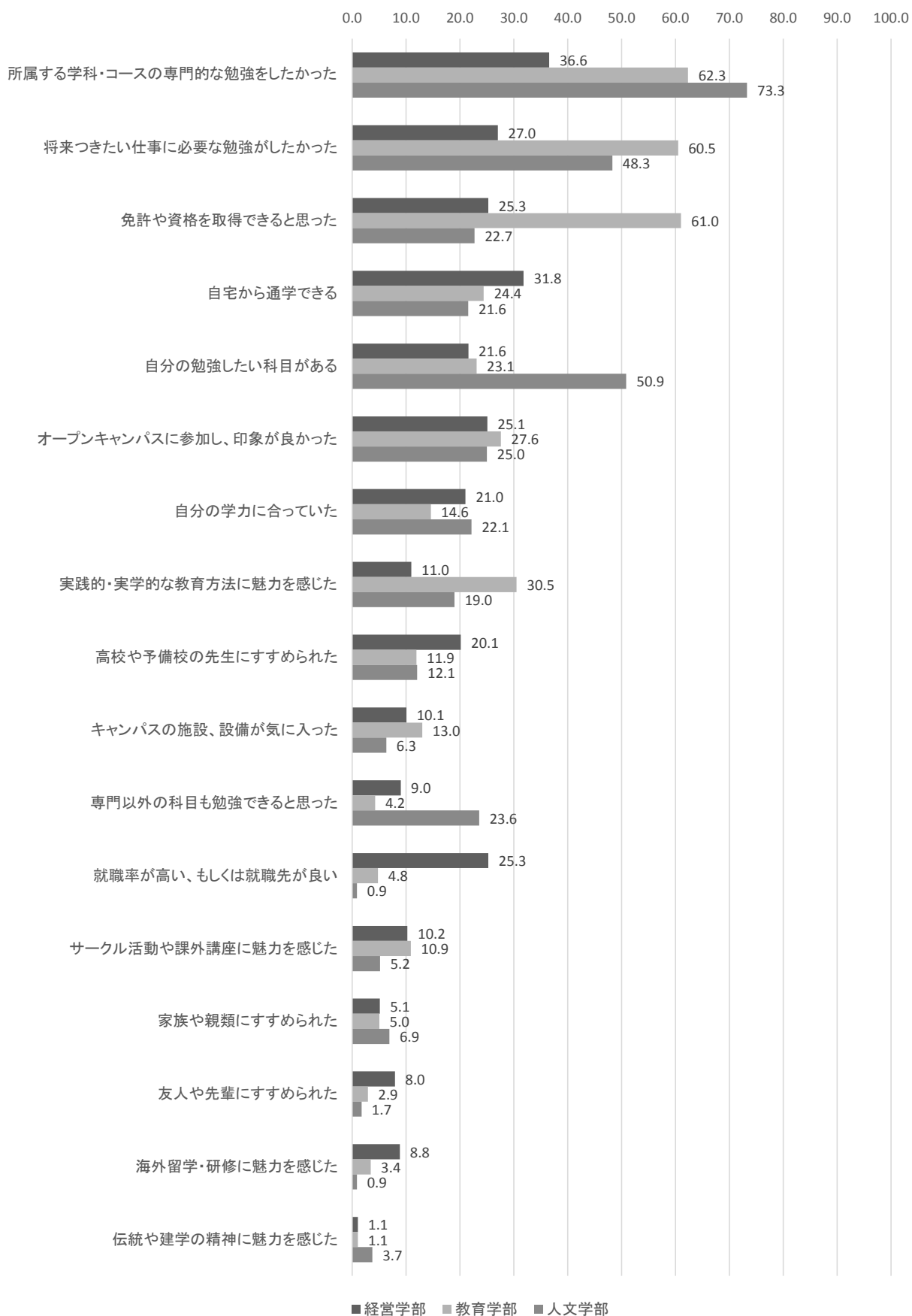
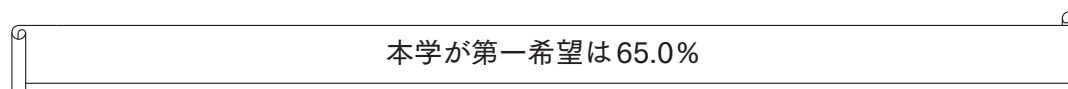


図 1 - 2 淑徳大学を選んだ動機（複数回答％）埼玉・東京キャンパス

2) 志望の状況



淑徳大学の志望順位について、回答を得た。大学全体の傾向をみると、「第一志望」64.7%、「第二志望」16.5%、「第三志望以下」18.5%、「無回答」0.3%、であった。第一志望入学者の割合が高い順に、総合福祉学部73.2%、人文学部68.4%、経営学部61.2%、コミュニティ政策学部59.0%、教育学部56.7%、看護栄養学部52.6%、となっている。本アンケートに今回から加わった人文学部が2位に入ってきた他は、前回と同じ順序である。

看護栄養学部と教育学部は、第三志望以下の学生の割合が他学部に比して高かった。(図2)

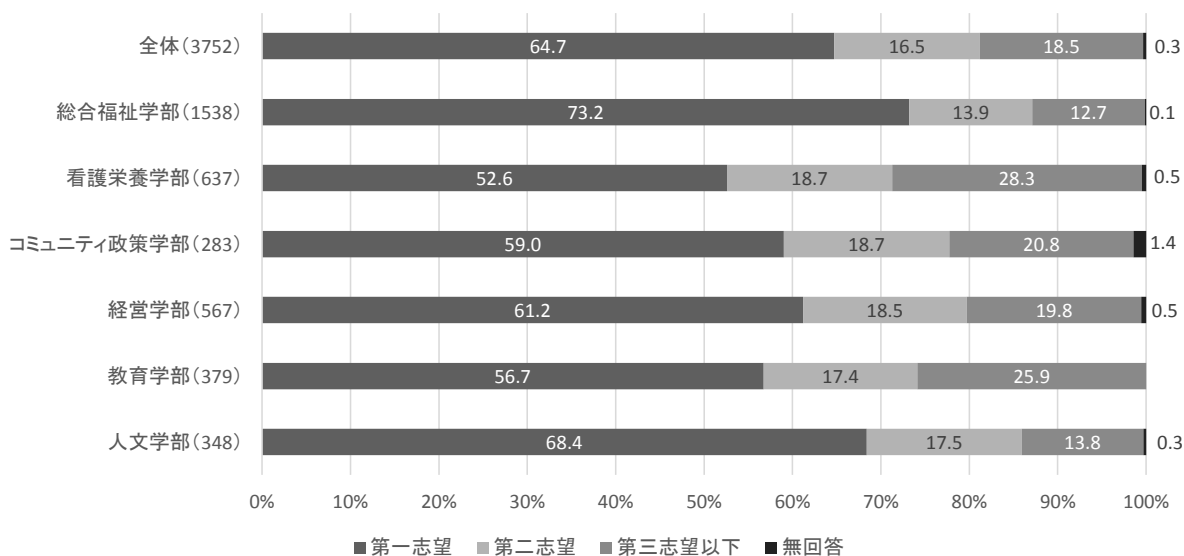
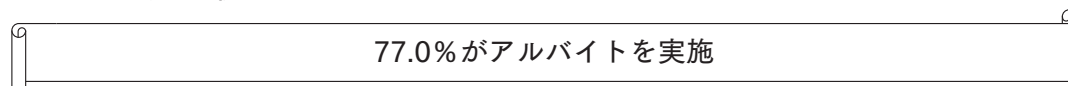


図2 志望の状況 (学部別)

(2) アルバイトの実施状況



1) アルバイトの実施状況

現在のアルバイトの実施状況について大学全体でみると、アルバイトを「している」と回答した学生は2,872人(76.5%)であった。学部別にみると総合福祉学部が1,188人(77.2%)、看護栄養学部が484人(76.0%)、コ

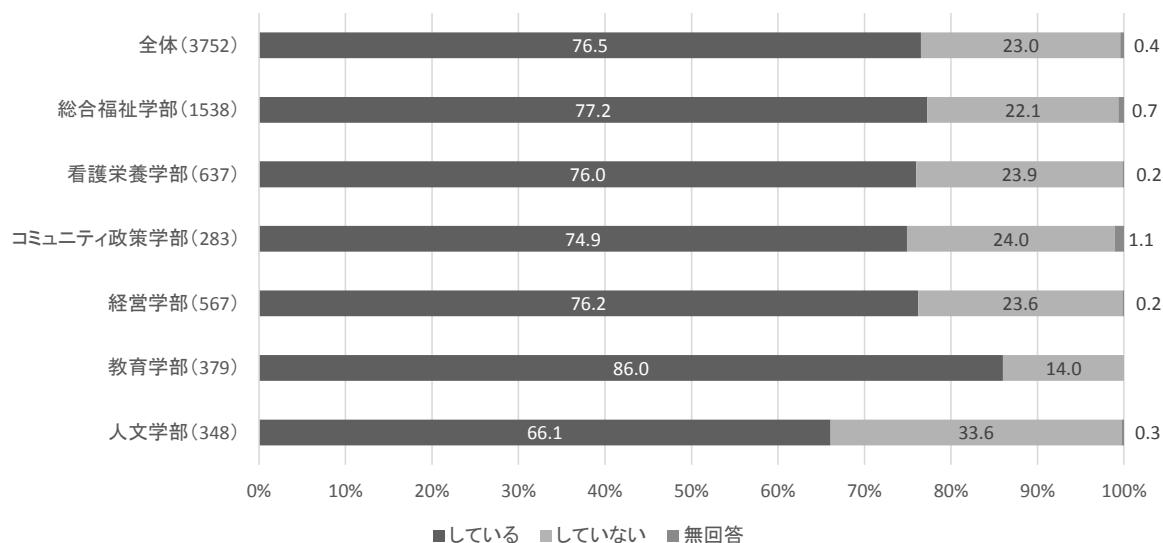


図3-1 アルバイトの実施状況 (学部別)

コミュニティ政策学部が212人(74.9%)、経営学部が432人(76.2%)、教育学部が326人(86.0%)、人文学部が230人(66.1%)であり、教育学部が最も多く、人文学部でやや少ない傾向がみられた。(図3-1)

学年別に傾向をみると、1年次は731人(66.4%)、2年次は812人(82.2%)、3年次は760人(83.2%)、4年次は569人(76.0%)であり、1年次がやや少なく、2～4年次は80.0%程度の学生がアルバイトをしているという結果であった。(図3-2)

学科別にみると、こども教育学科が326人(86.0%)と最も多く、歴史学科が91人(60.3%)と最も少なかった。(図3-3)

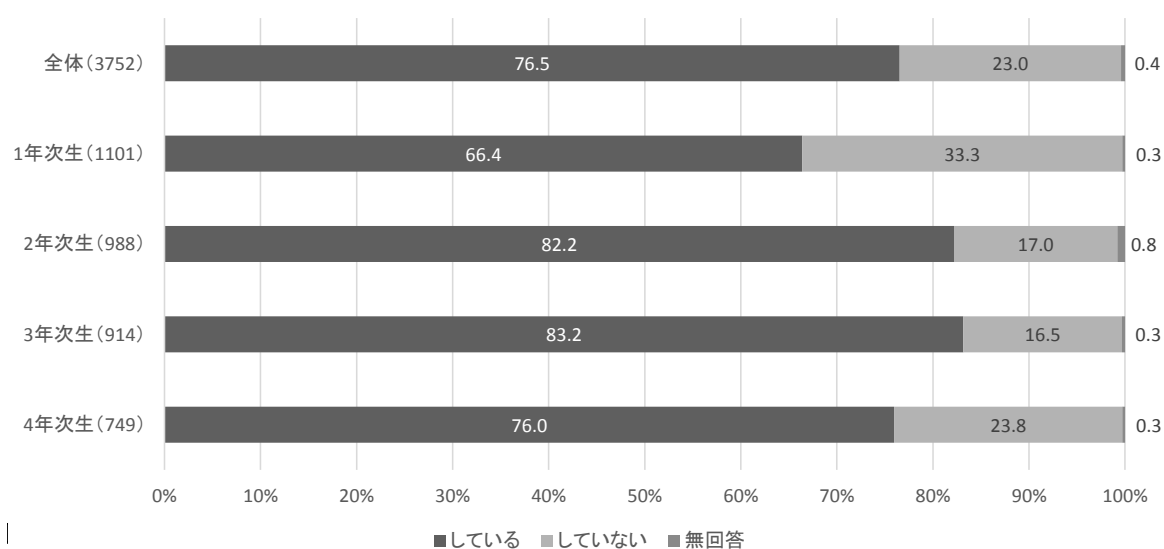


図3-2 アルバイトの実施状況(学年別)

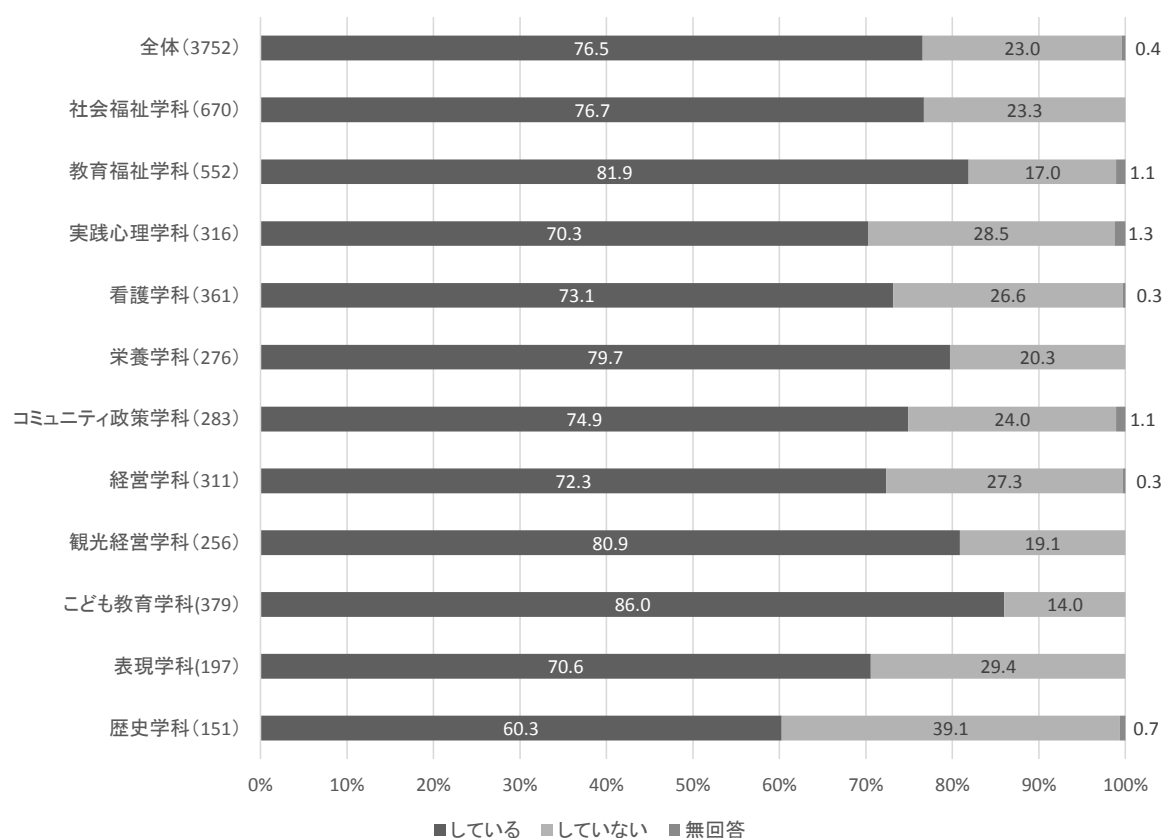


図3-3 アルバイトの実施状況(学科別)

2) アルバイト時間（4月～7月の週あたりの平均アルバイト時間）

アルバイトをしていると回答した学生に授業期間（4～7月）での週あたりの平均アルバイト時間について尋ねたところ、全体では「10時間～19時間」という学生が1,506人（52.4％）で最も多く、次いで「20時間～29時間」が621人（21.6％）、「10時間未満」が536人（18.7％）、「30時間以上」が189人（6.6％）、無回答が20人（0.7％）であった。

学部別にみると、経営学部の学生のアルバイト時間が最も長く、20時間以上アルバイトをしている学生が4割近くおり、一方、看護栄養学部の学生に短い傾向がみられた。（図3－4）

学年別では、学年があがるにつれてアルバイトをする時間が緩やかに増えている傾向がみられた。（図3－5）

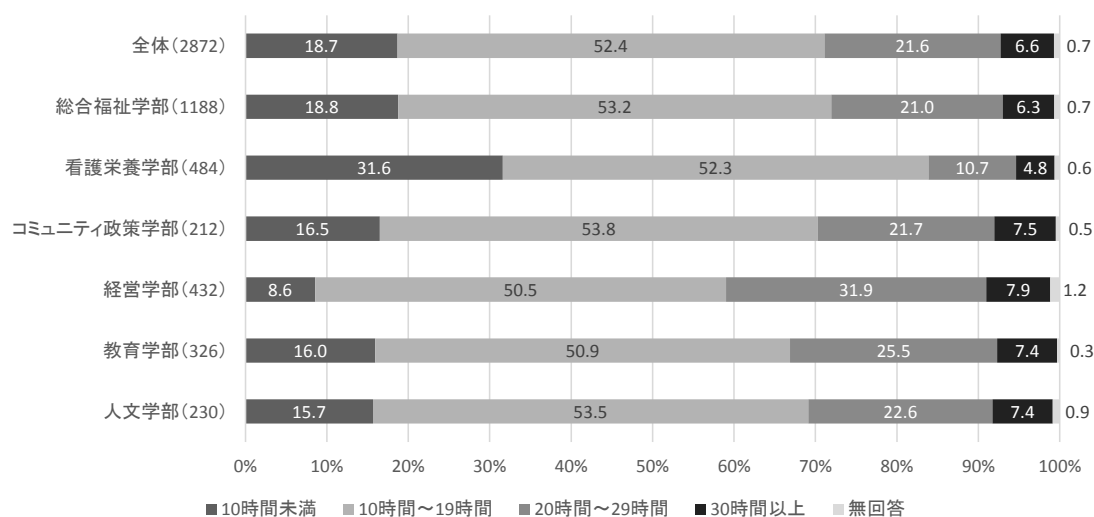


図3－4 アルバイト時間（学部別）

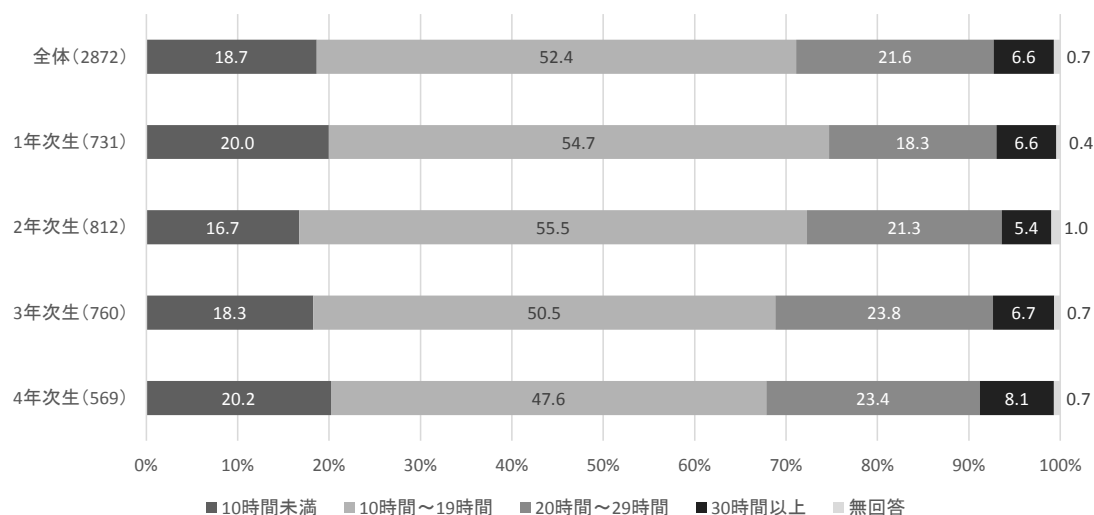


図3－5 アルバイト時間（学年別）

3) アルバイトの業種（複数回答可）

アルバイトをしていると回答した学生に職種に関する「その他」を含む9の選択肢を提示し、回答を得た。

全体では「飲食業」1,486人（51.9%）、「販売」964人（33.7%）で、この2職種が圧倒的に多かった。他には「塾講師・家庭教師など」188人（6.6%）、「販売・飲食業を除く軽労働（清掃、警備、配達等）」131人（4.6%）、「医療・福祉施設」93人（3.2%）と続いた。

学部別では、教育学部で「塾講師・家庭教師など」が11.0%と多いのが目立ち、また、看護栄養学部と教育学部で「飲食業」、経営学部と人文学部で「販売」が多い傾向がみられた。学生が行なっているアルバイトの職種を多いものから順に示す。

「その他」は、イベントスタッフをはじめとするサービス業が圧倒的に多く、他には、学童保育や保育所などの子どもを対象とするアルバイトや福祉施設でのアルバイトの記載がされていた。（図3－6）

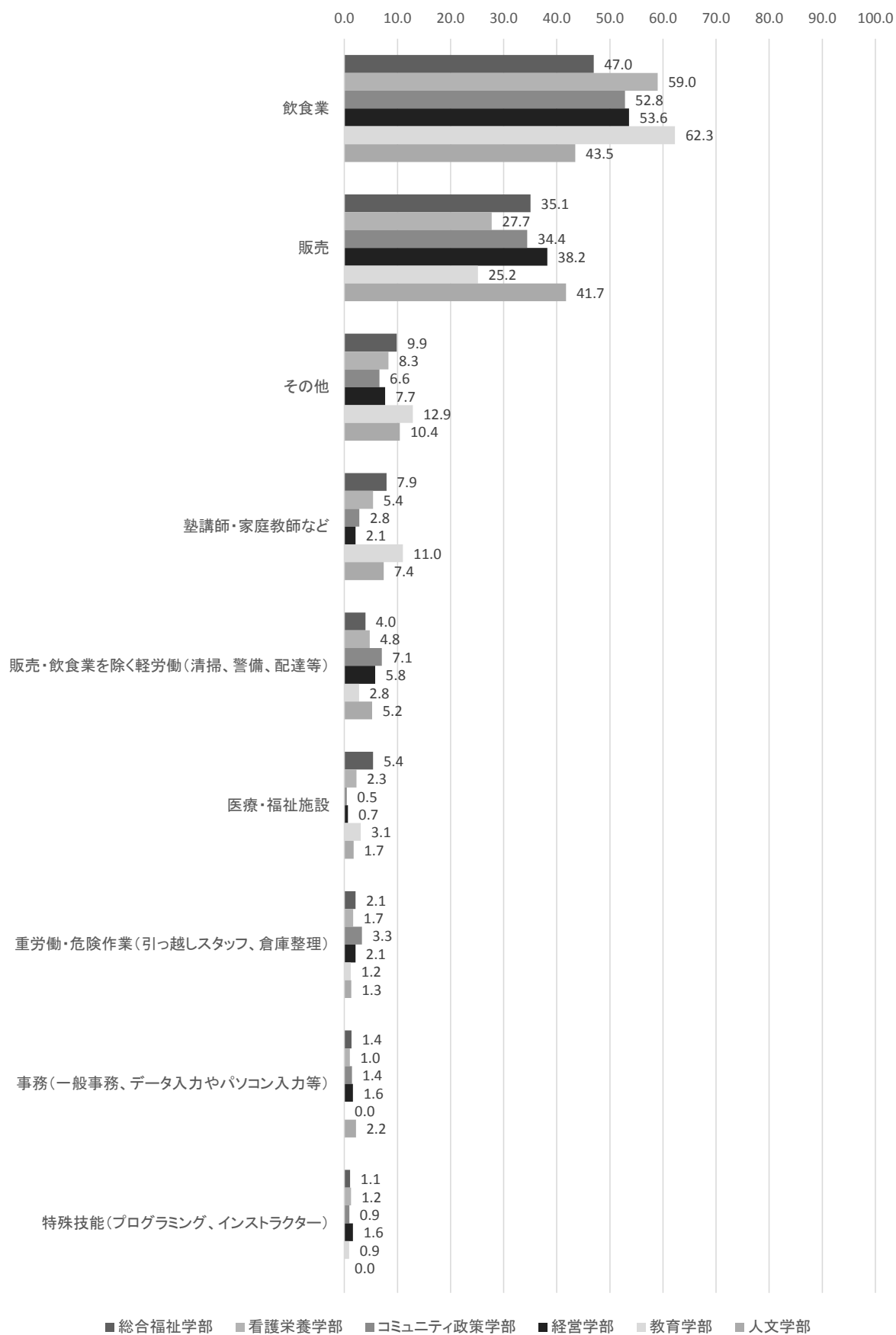


図３－６ アルバイトの職種（学部別）（複数回答％）

4) アルバイトの収入

アルバイトで得ている月収は、全体では「4～7万円未満」が1,201人(41.8%)で最も多く、次に「7～10万円未満」が745人(25.9%)、「1～4万円未満」が711人(24.8%)と続いた。

学部別では、経営学部は「7～10万円未満」が35.2%と最も多く、加えて「10万円以上」が9.3%であり、アルバイト収入が高い傾向がある。その一方で、看護栄養学部は「1～4万円未満」が44.6%と最も多く、アルバイト収入が低い傾向がみられた。(図3-7)

平均アルバイト時間の結果と照合すると、各学部の学生のアルバイト収入とアルバイト時間数には、強い正の相関がみられた。(図3-4)

学年別では2年次、3年次に収入の高い学生の割合が多かった。(図3-8)

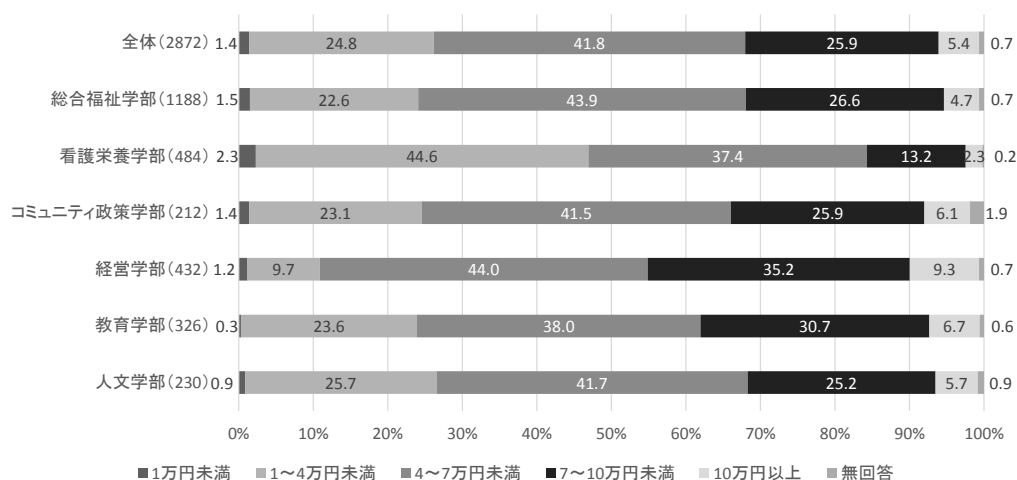


図3-7 月額のアバイト代(学部別)

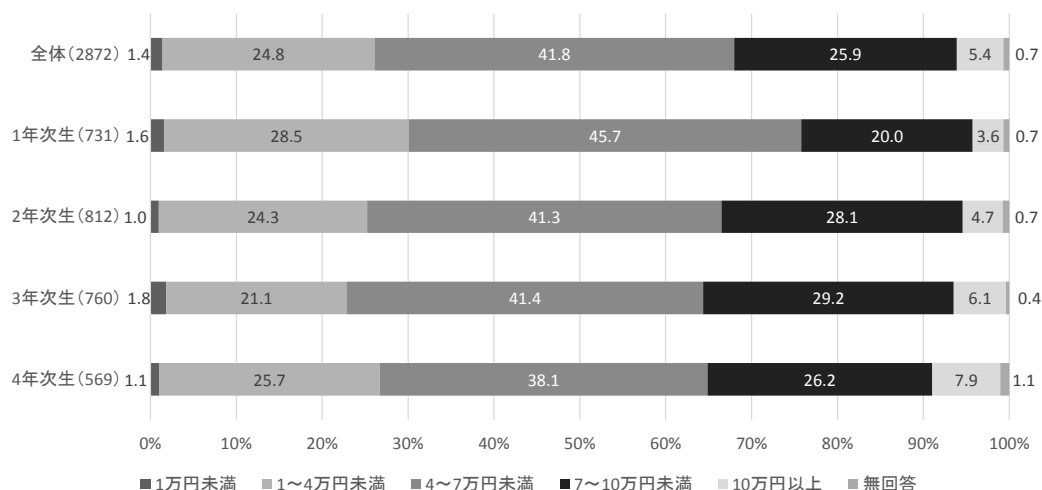


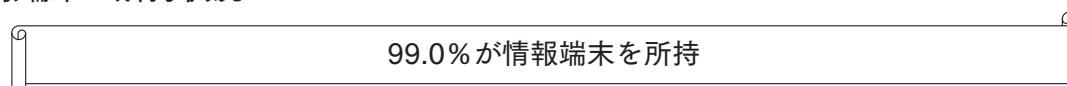
図3-8 月額のアバイト代(学年別)

5) アルバイト代の使途（複数回答可）

アルバイト代の主な使い道について、「その他」を含む10の選択肢を提示し、回答を得た。

全体では多いものから順にみると「生活費」が1,789人（62.6%）、「旅行・レジャー」が950人（33.2%）、「通学費（定期代等）」が870人（30.4%）、「交際費」が824人（28.8%）、「携帯電話・インターネット代」が727人（25.4%）と続き、その次に「学費」が439人（15.4%）であった。「その他」の自由記述欄には「趣味」「娯楽」「貯金」が多かった。（図3-9）

(3) 情報端末の所持状況



1) スマートフォンやタブレットの所持状況

スマートフォンやタブレットについて、大学全体で98.9%の学生から所有しているとの回答を得た。

学部間でも数字に大きな違いはなく、どの学部でもほぼ100.0%に近い学生が所有していると回答している。（図4）

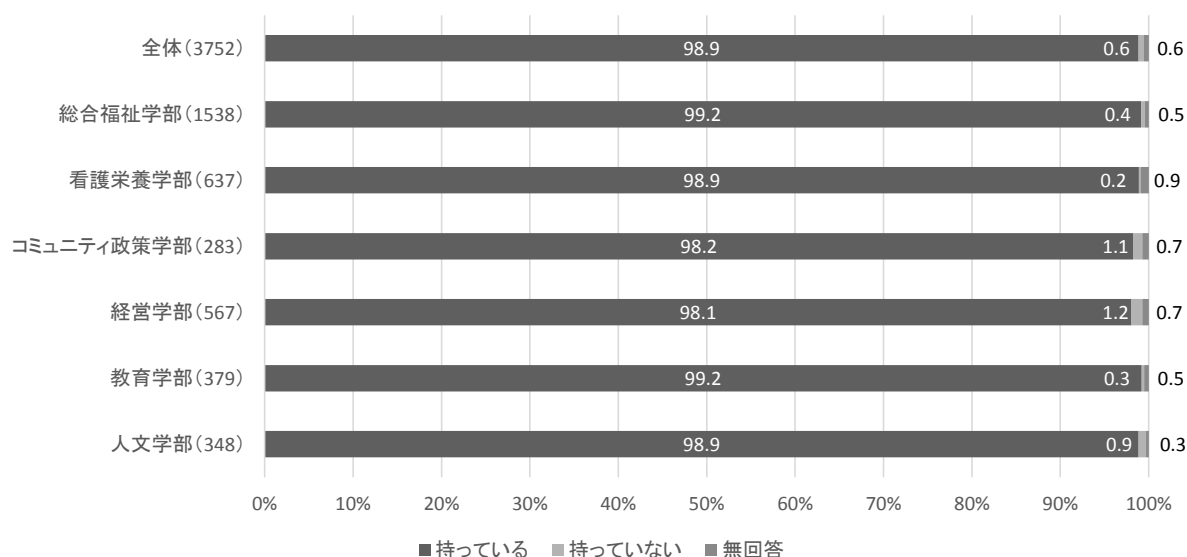


図4 スマートフォンやタブレットの所持状況（学部別）

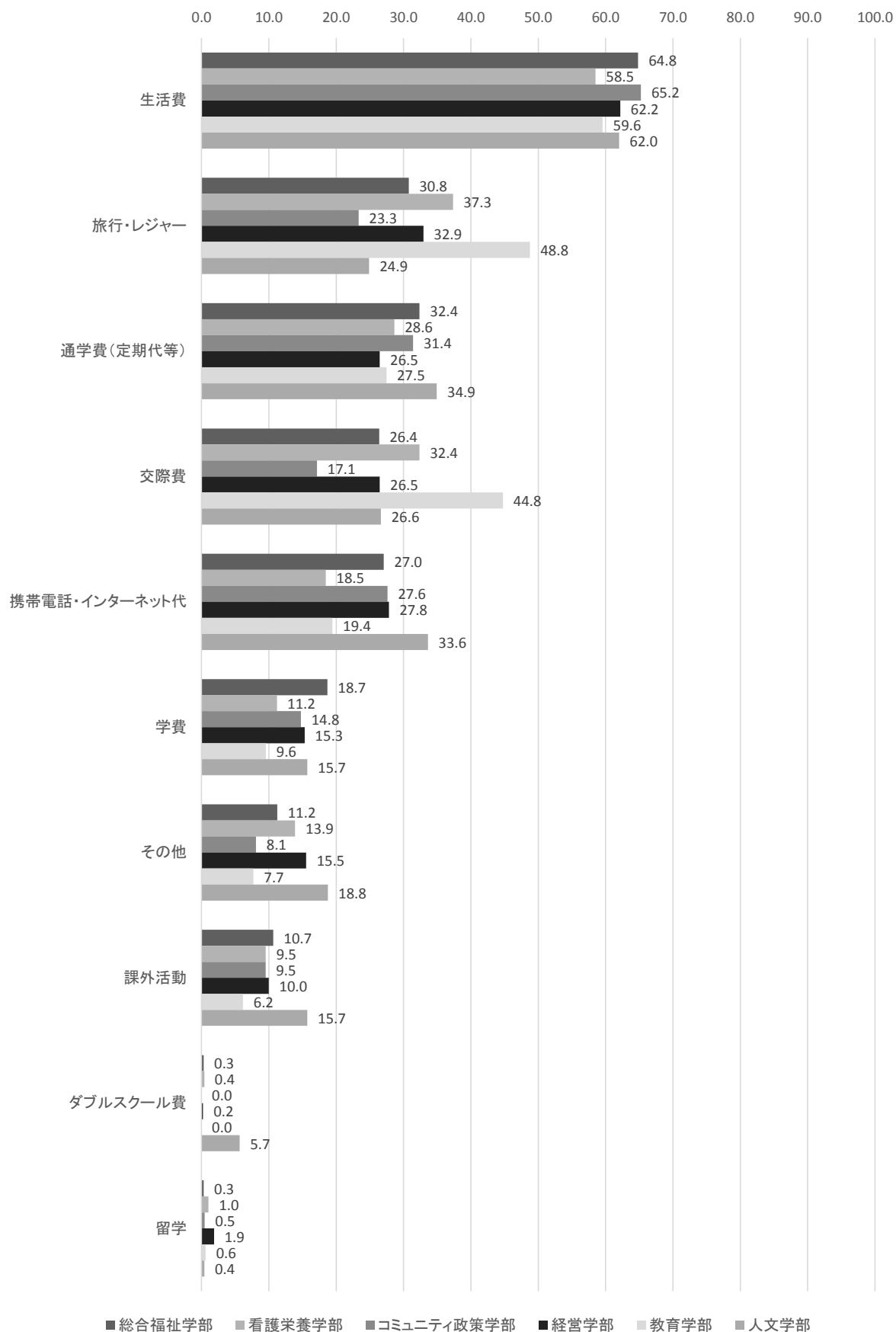


図3-9 アルバイト代の使途(学部別)(複数回答%)

2) 自宅で使用できるパソコンの所持状況

現在住んでいる家に自分が使用できるパソコンがあると回答した学生は、大学全体で89.6%であった。学部別にみると、看護栄養学部の95.1%が最も多く、コミュニティ政策学部の82.3%が最も少なかった。自宅で使用できるパソコンの所持率はやや低い傾向にあるといえる。(図5)

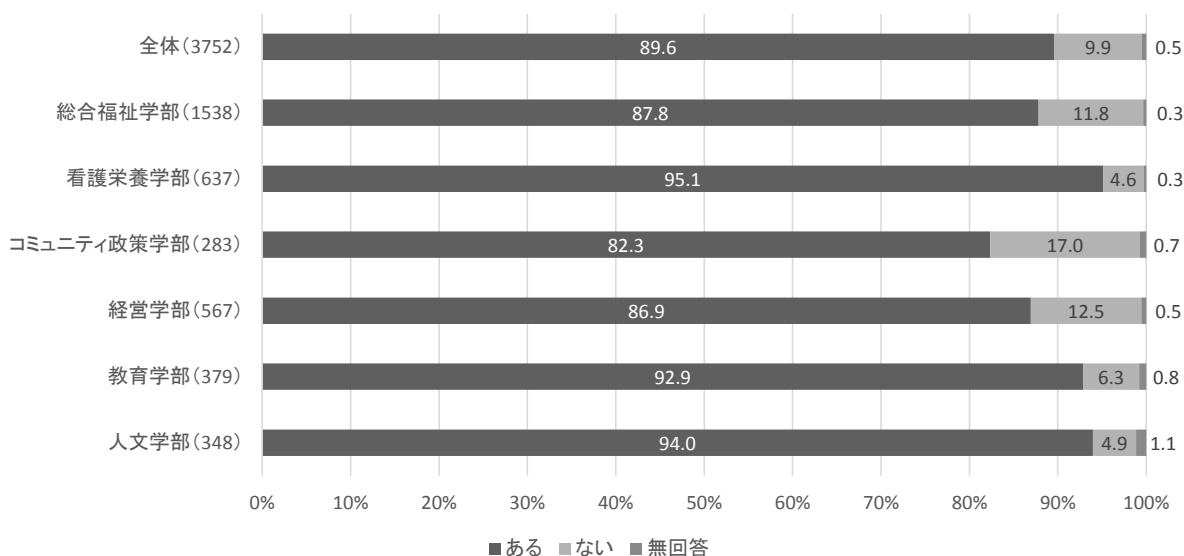
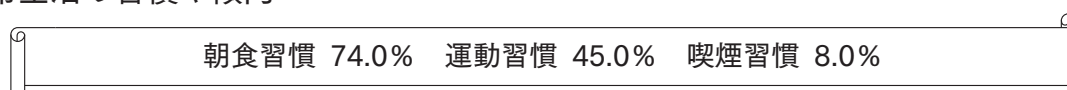


図5 自宅で使用できるパソコンの所持状況 (学部別)

(4) 日常生活の習慣や傾向



1) 朝食を毎日食べている

「朝食を毎日食べている」という設問に対し、「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生は、大学全体で73.7%であった。一方で「ややあてはまらない」もしくは「あてはまらない」と回答した学生は26.1%であった。

学部別でみると、看護栄養学部は「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生が81.0%と最も多く、コミュニティ政策学部と経営学部は「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生がそれぞれ68.5%、66.5%と多い傾向であった。(図6-1)

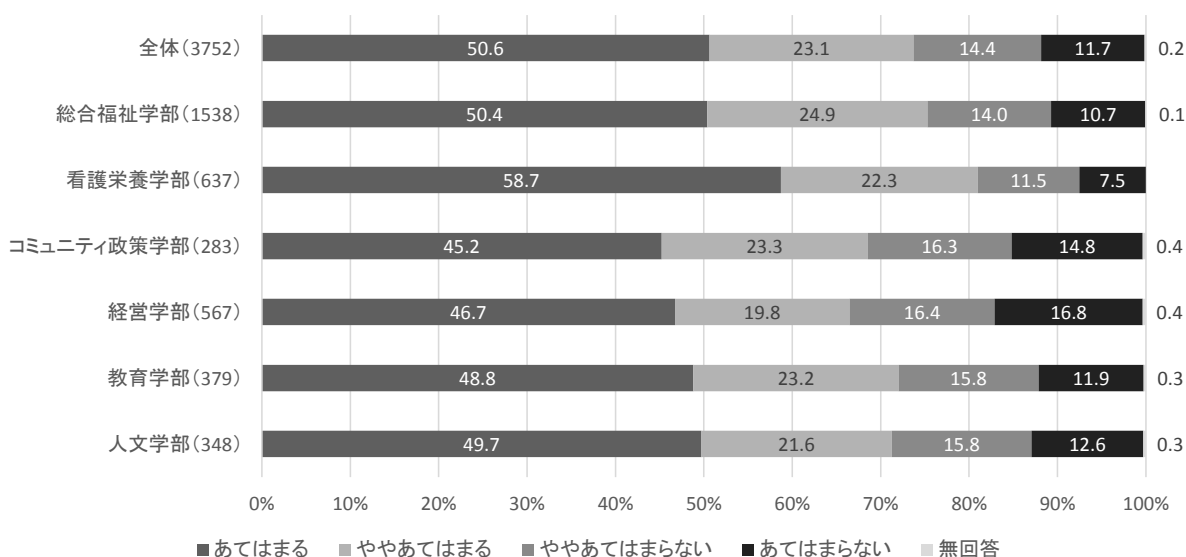


図6-1 朝食を毎日食べている (学部別)

2) 運動の習慣がある

「運動の習慣がある」という設問に対して、大学全体では「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した学生は45.4%、「ややあてはまらない」もしくは「あてはまらない」と回答した学生は54.2%であった。

この設問に関しては、学部毎に傾向が大きく異なっている。看護栄養学部では、67.3%の学生が「ややあてはまらない」もしくは「あてはまらない」と回答しており、運動の習慣を持たない傾向が高い。一方、コミュニティ政策学部では、61.1%の学生が「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答しており、多くの学生が運動の習慣を持つ傾向である。(図6-2)

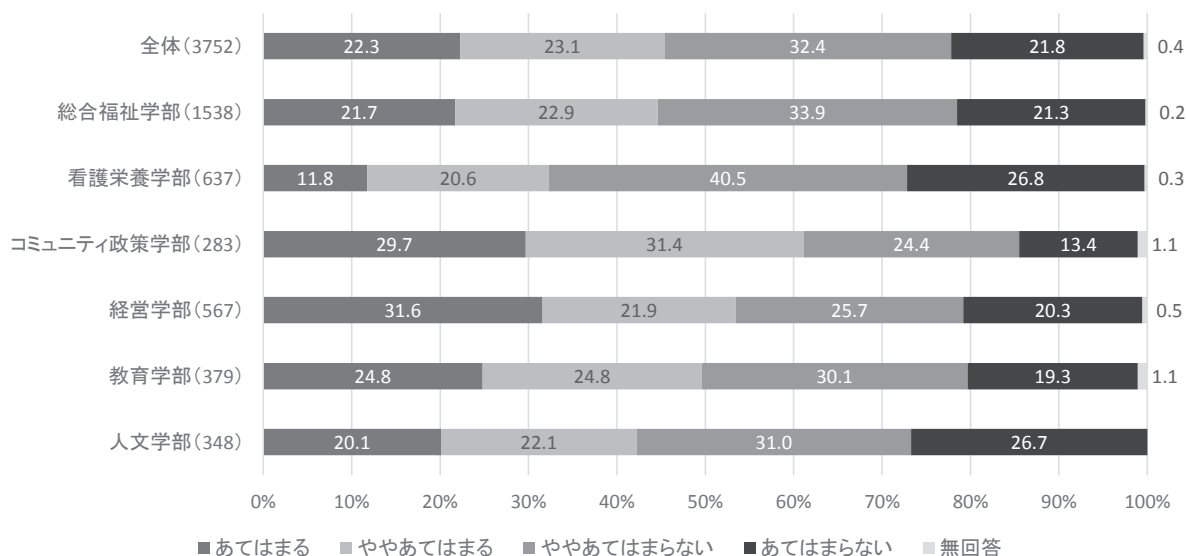


図6-2 運動の習慣がある (学部別)

3) 喫煙の習慣がある

「喫煙の習慣がある」という設問に対して、「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体では7.5%となり、「ややあてはまらない」もしくは「あてはまらない」と回答した学生は92.0%であった。

学部別にみると、最も喫煙率が低いのは看護栄養学部で、96.2%の学生が「ややあてはまらない」もしくは「あてはまらない」と回答していた。一方、コミュニティ政策学部では14.5%、経営学部では13.4%の学生が「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答しており、他の学部と比べると喫煙率が若干高い傾向にある。(図6-3)

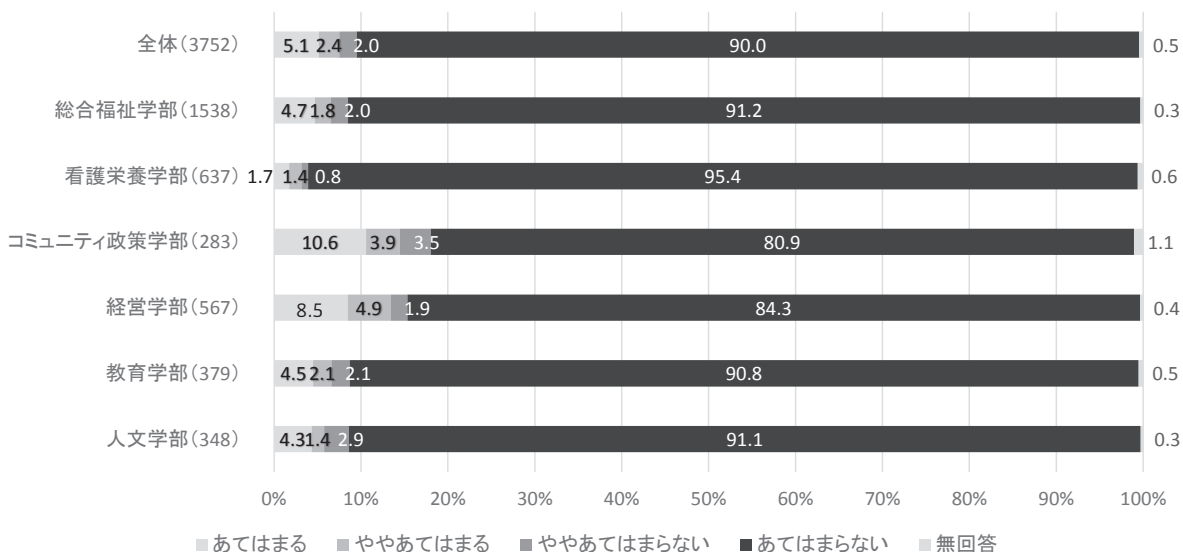


図6-3 喫煙の習慣がある (学部別)

4) 飲酒の習慣がある

「飲酒の習慣がある」という設問に対して、大学全体では75.4%の学生が「ややあてはまらない」もしくは「あてはまらない」と回答している。

学部間でも傾向に大きな違いはなく、どの学部もほぼ70.0%～80.0%近くの学生が、「ややあてはまらない」もしくは「あてはまらない」と回答している。(図6－4)

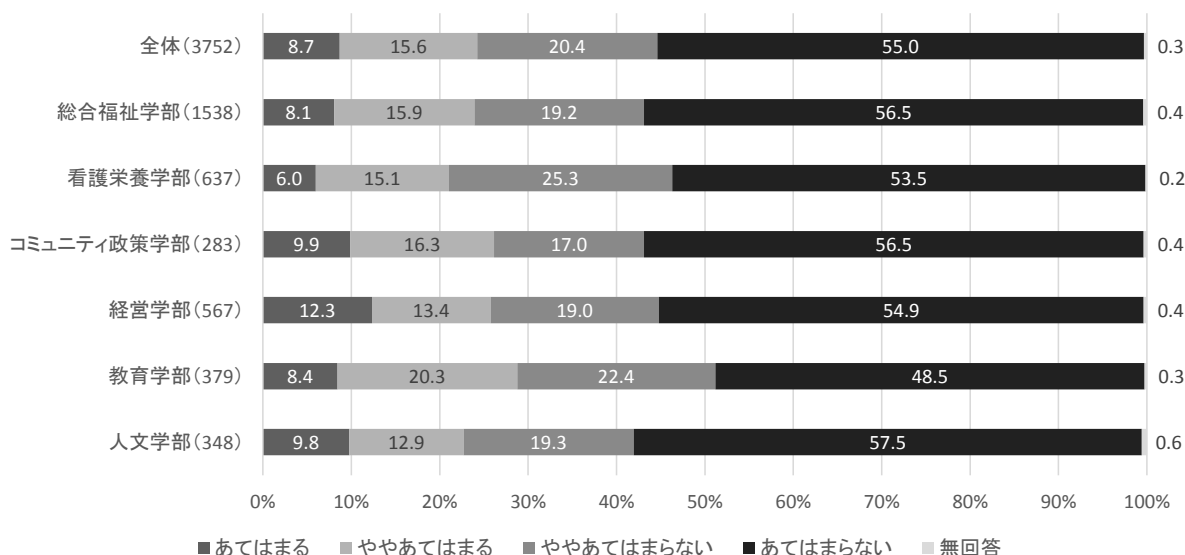
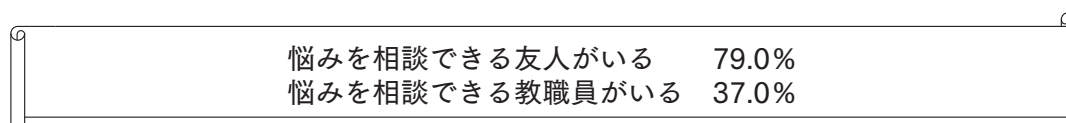


図6－4 飲酒の習慣がある（学部別）

(5) 友人関係及び教職員との関係



1) 大学で新しい友人ができた

「大学で新しい友人ができた」という設問に対して、「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した学生を統合すると、大学全体では95.3%となり、この結果から、淑徳大学では、学生の多くが大学生活を送っていく中で新しい友人関係を構築していることが伺える。

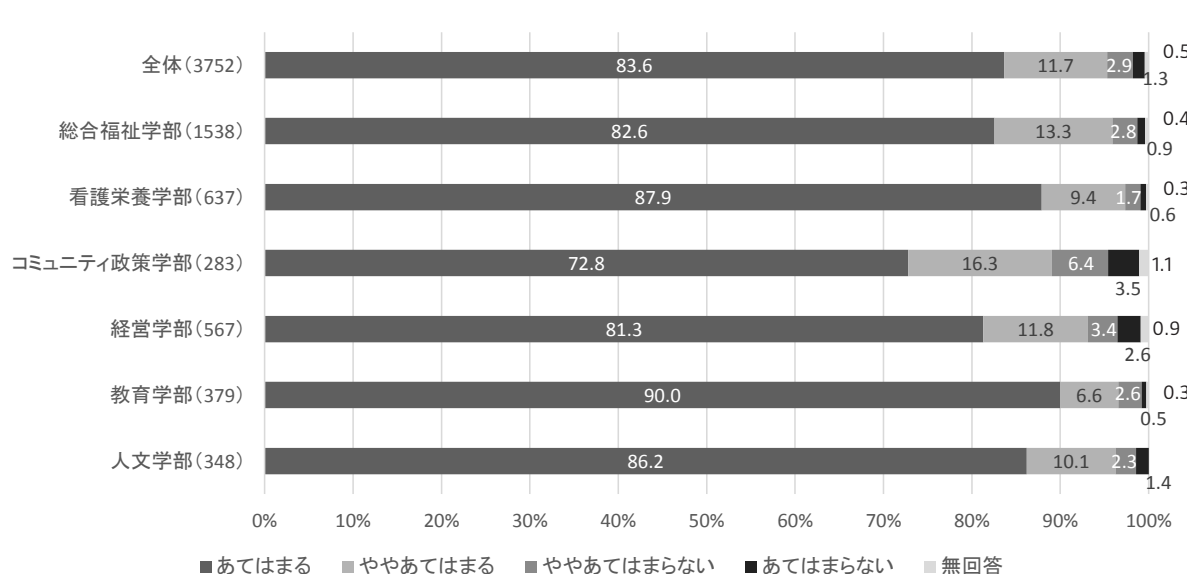


図7－1 大学で新しい友人ができた（学部別）

「あてはまる」、「ややあてはまる」を統合して学部別でみると、総合福祉学部95.9%、看護栄養学部97.3%、コミュニティ政策学部89.1%、経営学部93.1%、教育学部96.6%、人文学部96.3%であった。(図7-1)

2) 大学内の友人関係に悩みがある

「大学内の友人関係に悩みがある」という設問に対して、「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体では27.5%となり、友人関係において30.0%近い学生がなんらかの悩みを抱えていることが伺える。

「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した学生の割合を学部別でみると、総合福祉学部29.3%、看護栄養学部27.5%、コミュニティ政策学部29.3%、経営学部20.5%、教育学部22.1%、人文学部35.1%で学部差がみられた。(図7-2)

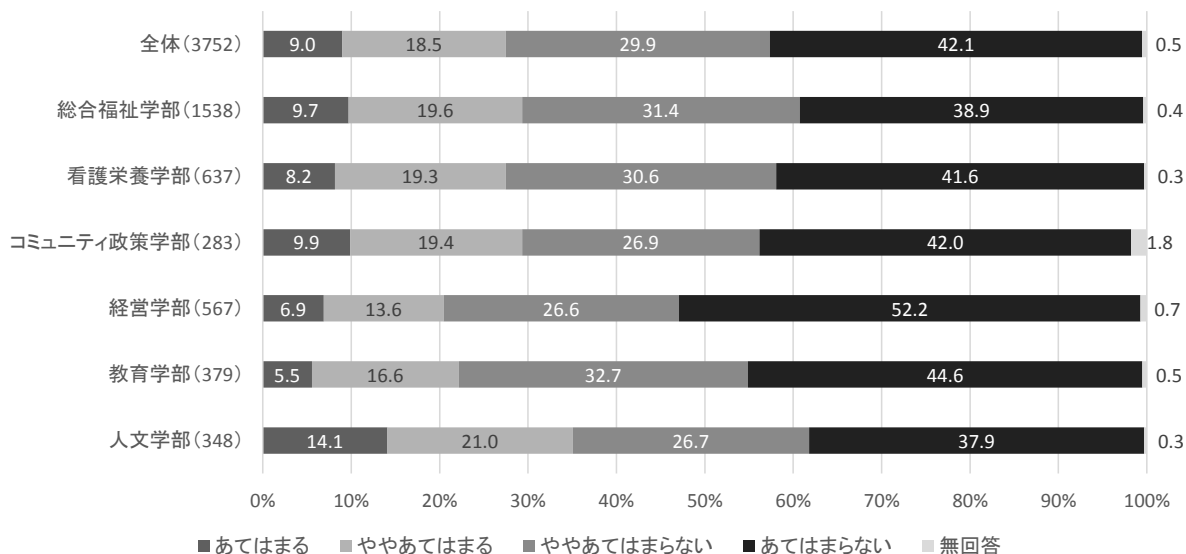


図7-2 大学内の友人関係に悩みがある (学部別)

3) 大学内に悩み事を相談できる友人がいる

「大学内に、悩み事を相談できる友人がいる」という設問に対して、「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した学生の割合は、大学全体では79.0%で前回調査とほぼ同じであった。

「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した学生の割合を学部別でみると、総合福祉学部77.5%、看護栄養学部84.0%、コミュニティ政策学部71.4%、経営学部78.8%、教育学部86.6%、人文学部74.4%であった。(図7-3)

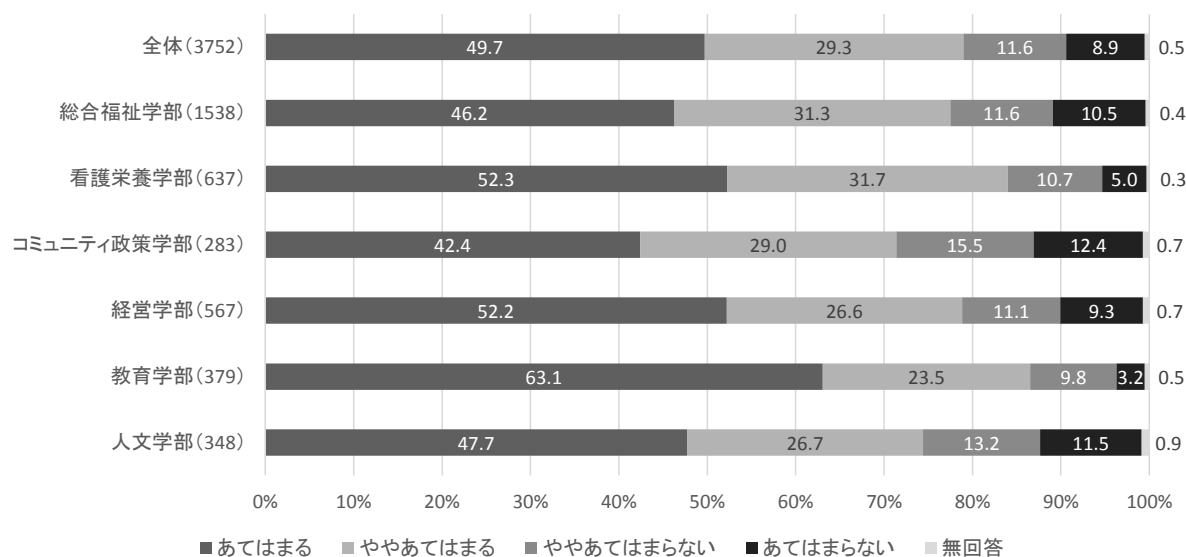


図7-3 大学内に、悩み事を相談できる友人がいる (学部別)

4) 大学内に悩み事を相談できる教職員がいる

「大学内に、悩み事を相談できる教職員がいる」という設問に対して、「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した学生の割合をみると、大学全体では37.2%と前回調査とほぼ同じであった。

「あてはまる」、「ややあてはまる」と回答した学生の割合を学部別でみると、総合福祉学部32.7%、看護栄養学部30.5%、コミュニティ政策学部43.5%、経営学部36.7%、教育学部45.1%、人文学部56.0%で学部差が大きかった。(図7-4)

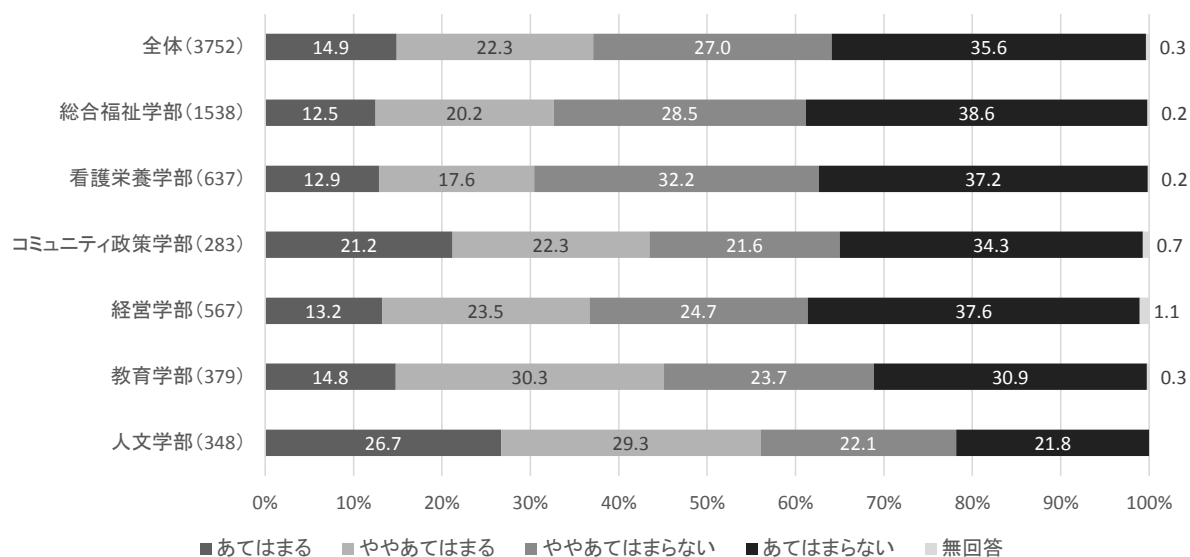
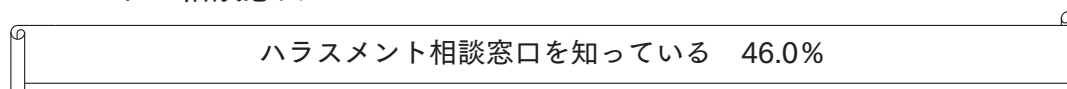


図7-4 大学内に悩み事を相談できる教職員がいる(学部別)

(6) ハラスメントの相談窓口



「大学内にハラスメントの相談窓口があることを知っていますか」という設問に対して、「知っている」と回答した学生は、大学全体では46.4%であった。

学部別でみると、看護栄養学部は「知っている」と回答した学生が71.4%と最も多く、人文学部は23.3%と最も少なかった。(図8-1)

学年別でみると、「知っている」と回答した学生は1年次41.8%、2年次45.6%、3年次47.9%、4年次52.5%であった。学年が進むにつれて、認知度は高くなる傾向にあり、4年次は1年次より認知度が10.7%高くなっていた。(図8-2)

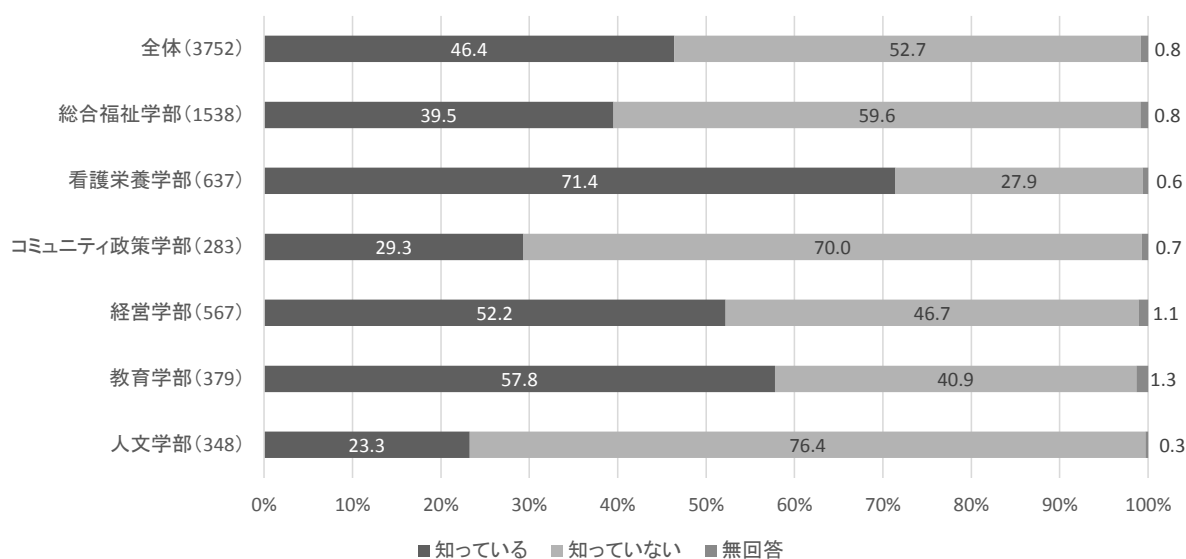


図8-1 ハラスメント相談窓口 (学部別)

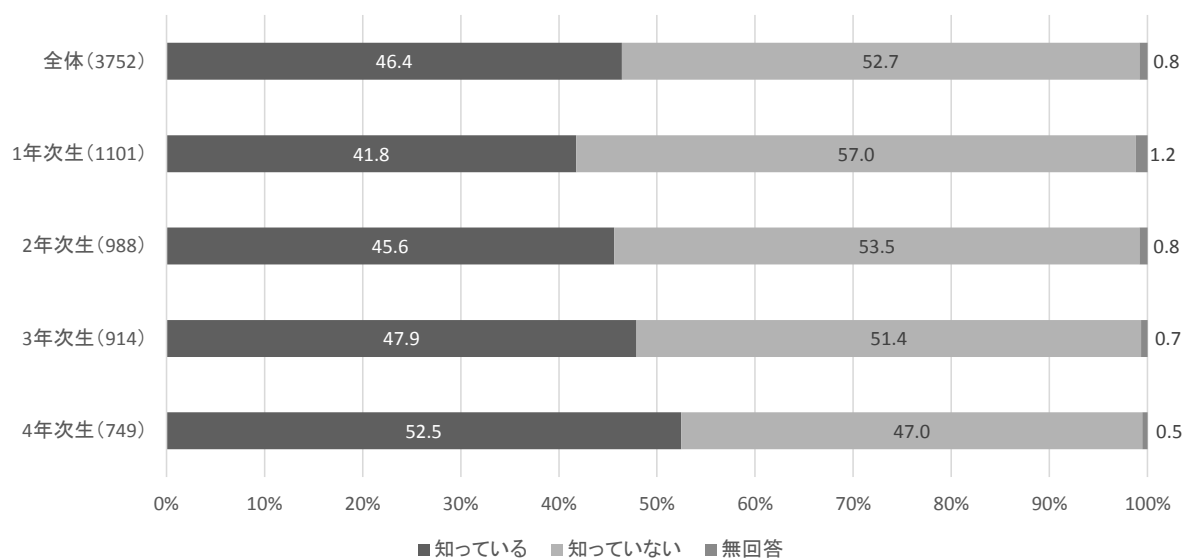


図8-2 ハラスメント相談窓口 (学年別)

(7) 教育環境の満足度

教職員の対応は、60.0%以上が満足

1) 授業の時間割

授業の時間割について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で60.2%であり、半数以上の学生は満足傾向にある。

学部別でみると、「満足」もしくは「やや満足」と回答した割合は、総合福祉学部64.3%、看護栄養学部51.2%、コミュニティ政策学部58.7%、経営学部63.8%、教育学部56.7%、人文学部58.1%であった。看護栄養学部では、「やや不満」と「不満」と回答した割合が48.5%と高かった。(図9-1)

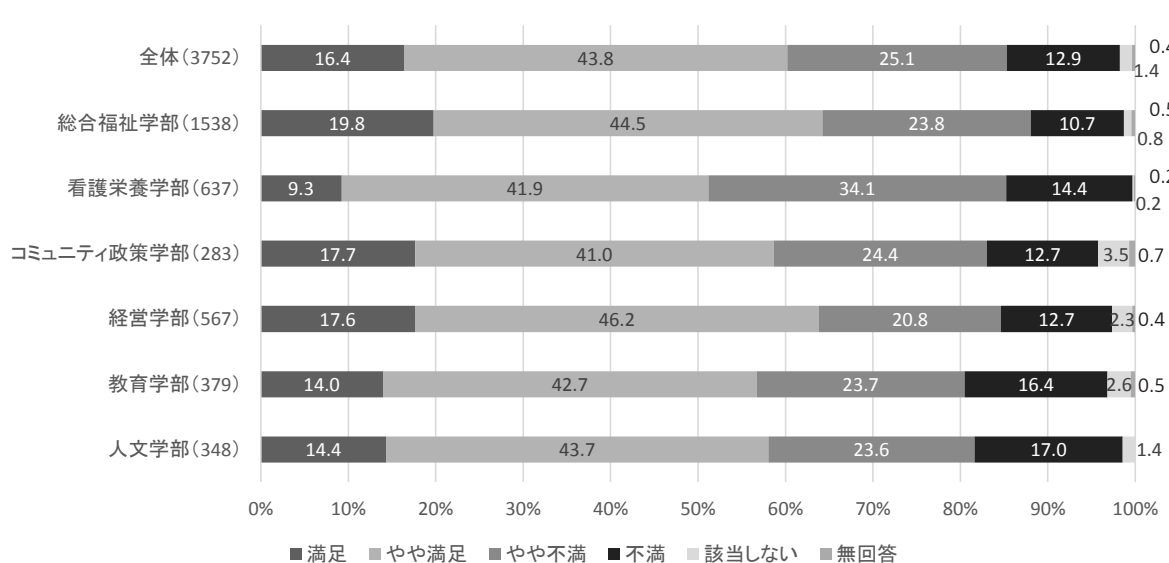


図9-1 授業の時間割 (学部別)

2) 履修指導・履修相談

履修指導・履修相談について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で62.6%であった。

学部別で「満足」もしくは「やや満足」の割合をみると、総合福祉学部62.6%、看護栄養学部56.0%、コミュニティ政策学部55.5%、経営学部70.2%、教育学部68.6%、人文学部61.5%となり、経営学部は満足と回答した割合が最も高かった。(図9-2)

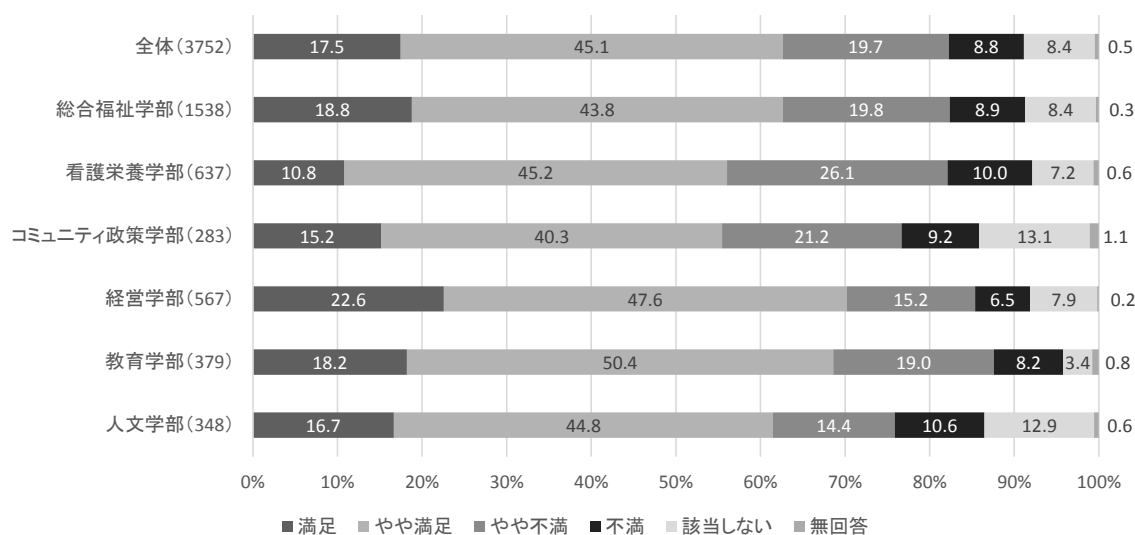


図9-2 履修指導・履修相談 (学部別)

3) 教員の学生に対する対応

教員の学生に対する対応について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、67.9%であった。

学部別で「満足」もしくは「やや満足」の割合をみると、総合福祉学部67.9%、看護栄養学部67.3%、コミュニティ政策学部59.7%、経営学部69.3%、教育学部72.0%、人文学部69.2%となり、教育学部が最も満足度の割合が高かった。(図9-3)

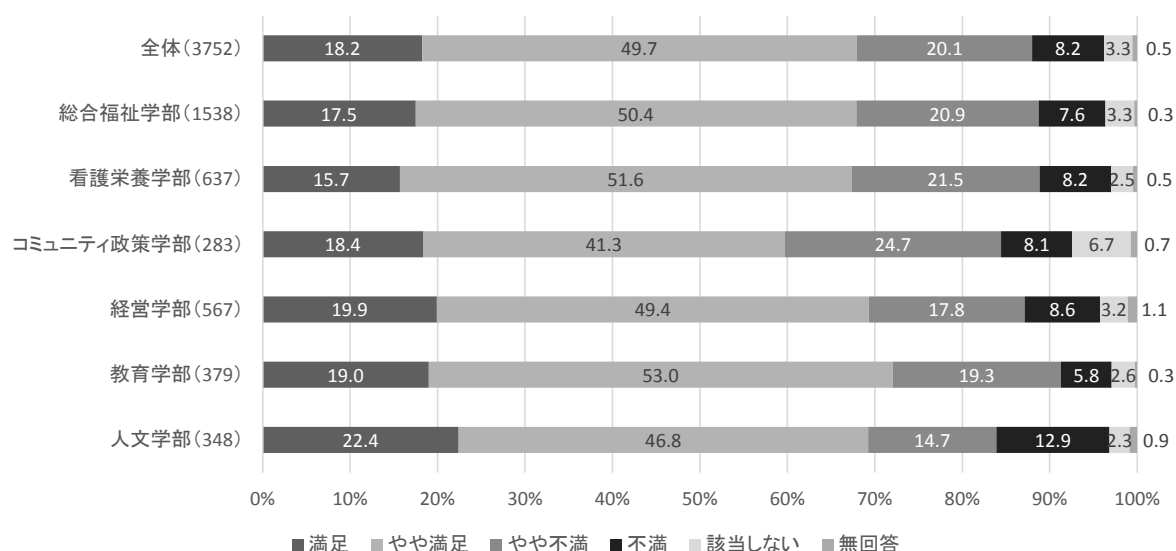


図9-3 教員の学生に対する対応(学部別)

4) オフィス・アワーの利用しやすさ

オフィス・アワーの利用しやすさについて、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で48.9%であった。

満足傾向が最も高かったのが、経営学部55.0%、次いで教育学部50.7%、コミュニティ政策学部49.5%、総合福祉学部48.6%、看護栄養学部45.6%、人文学部43.4%で、どの学部も半数程度にとどまっている。(図9-4)

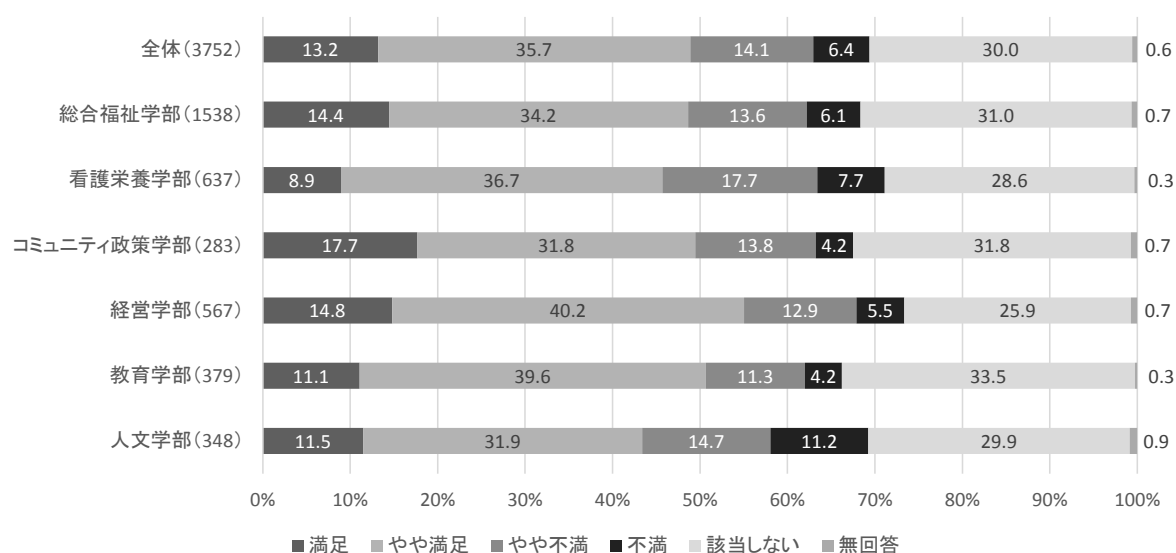


図9-4 オフィス・アワーの利用しやすさ(学部別)

5) 事務局職員の学生に対する対応

事務局職員の学生に対する対応について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体では67.4%であった。

学部別の「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合をみると、総合福祉学部71.1%、看護栄養学部70.3%、コミュニティ政策学部64.7%、経営学部66.5%、教育学部57.5%、人文学部60.0%で、総合福祉学部と看護栄養学部は70.0%以上が満足傾向となった。(図9-5)

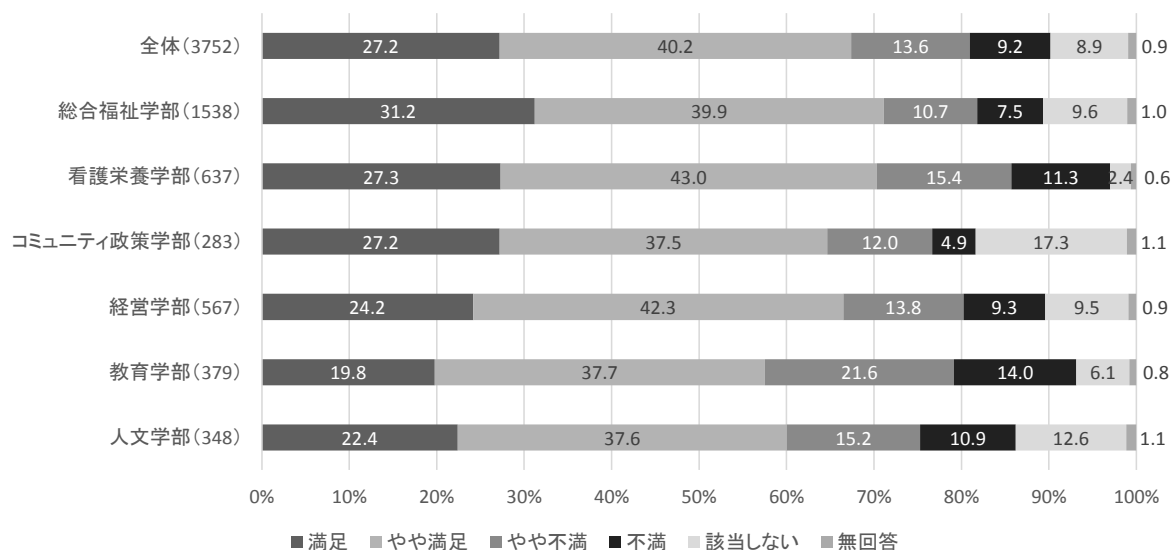


図9-5 事務局職員の学生に対する対応(学部別)

6) 図書館(室)の蔵書

図書館(室)の蔵書について、大学全体で「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は73.7%で、学生は満足傾向にあった。

学部別でみると、学部間で大きな差がみられ、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合が高かったのは教育学部で81.3%、最も低かったのは人文学部の48.3%であった。(図9-6)

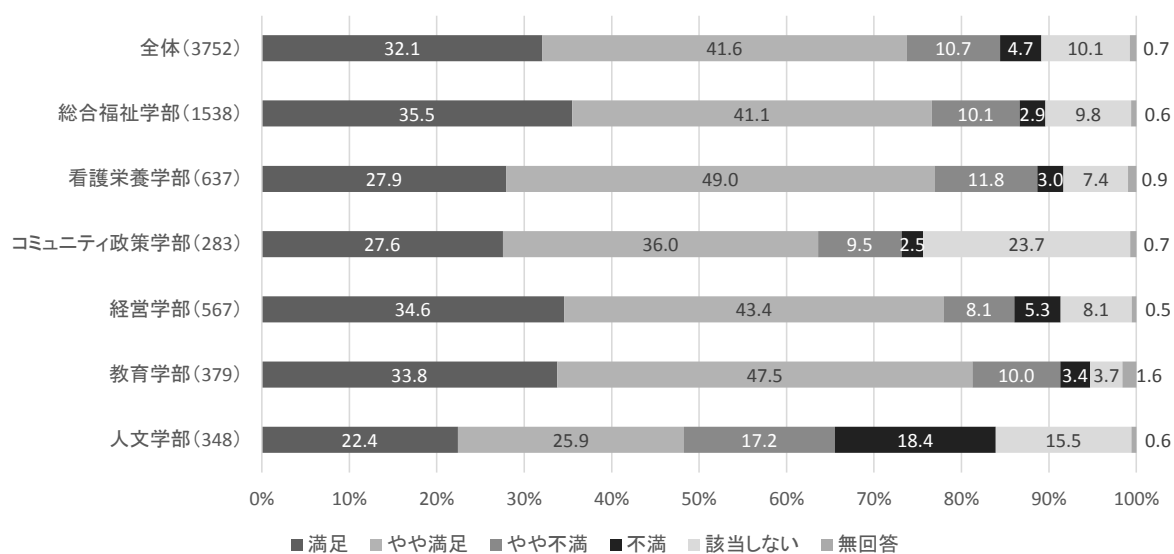


図9-6 図書館(室)の蔵書(学部別)

7) 図書館（室）の開館時間

図書館（室）の開館時間について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で72.2%であった。「図書館（室）の蔵書」より若干割合は低いが同じく満足傾向にあった。（図9－7）

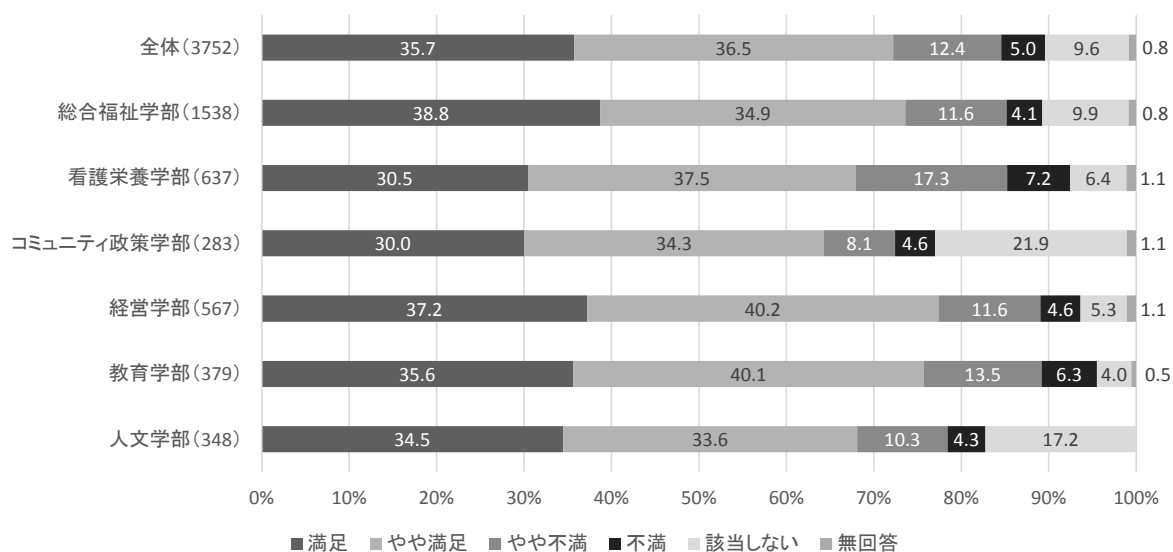


図9－7 図書館（室）の開館時間（学部別）

8) 図書館（室）の座席数・設備（パソコン・ビデオ・コピー等）

図書館（室）の座席数・設備（パソコン・ビデオ・コピー等）について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で63.4%となり、「図書館（室）の蔵書」、「図書館（室）の開館時間」に比べると、満足度は10.0%程度下がる回答となった。

学部別で「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合をみると、看護栄養学部が73.1%と最も高く、コミュニティ政策学部が53.7%と最も低い回答となった。（図9－8）

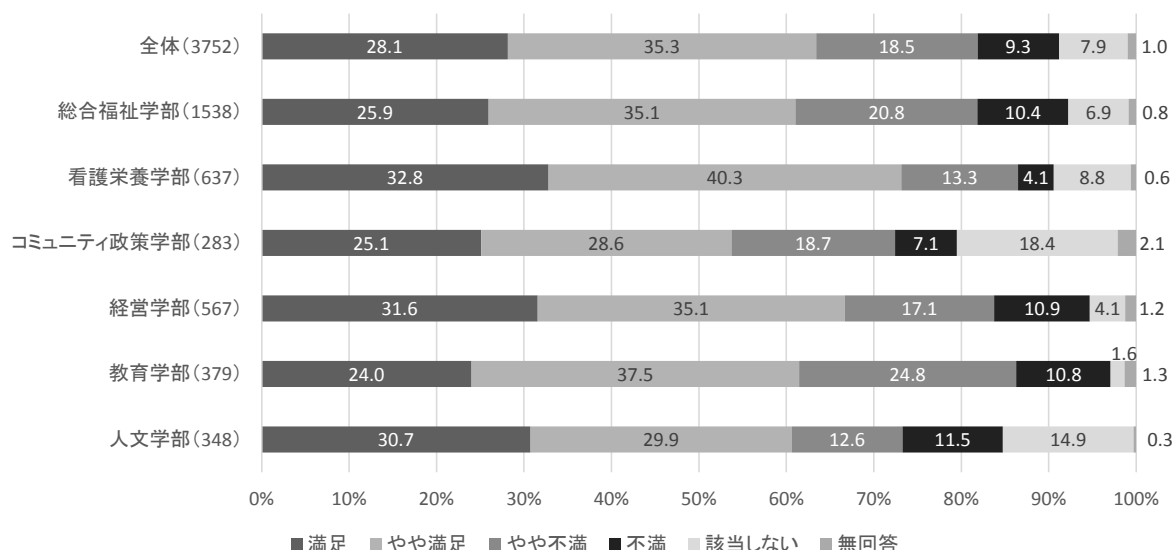


図9－8 図書館（室）の座席数・設備（学部別）

9) パソコンが設置されている教室の利用時間

パソコンが設置されている教室の利用時間について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体では70.9%と学生は満足の傾向であった。

学部別で「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合をみると、経営学部が74.8%と最も高く、人文学部が50.5%と最も低い回答となった。

また、ほとんどの学部で「不満」と回答した割合が5.3～8.2%であるのに比べ、人文学部では22.7%の学生が不満と回答し、「やや不満」と合わせると42.0%の学生が不満と感じている。(図9-9)

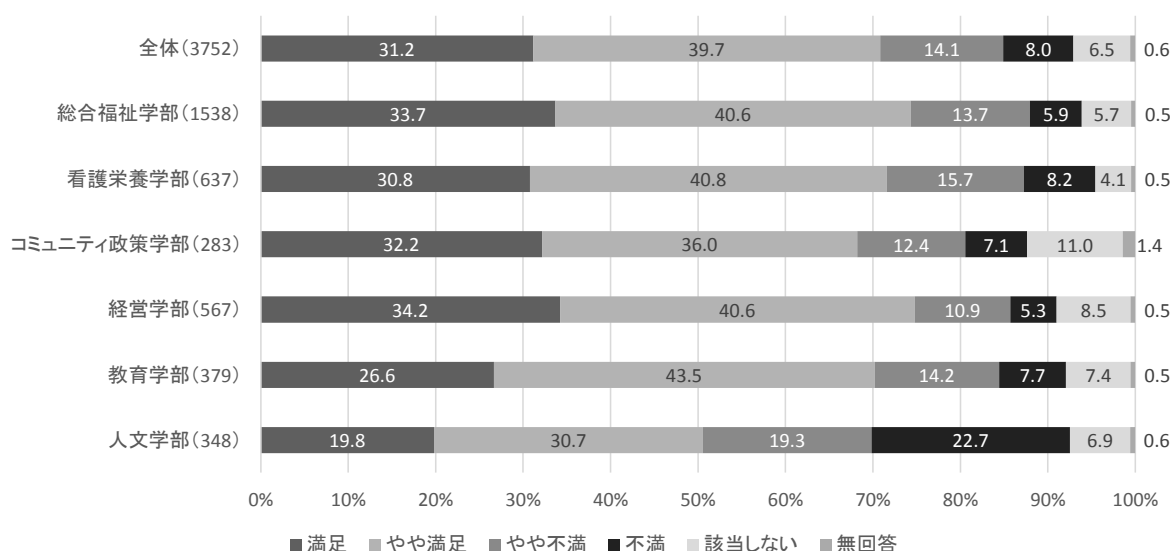


図9-9 パソコンが設置されている教室の利用時間(学部別)

10) 利用できるパソコンの台数

大学全体で見ると、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で57.2%であった。

学部別でみると、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合が高かったのが、看護栄養学部で63.4%、最も低かったのは人文学部で44.0%となった。(図9-10)

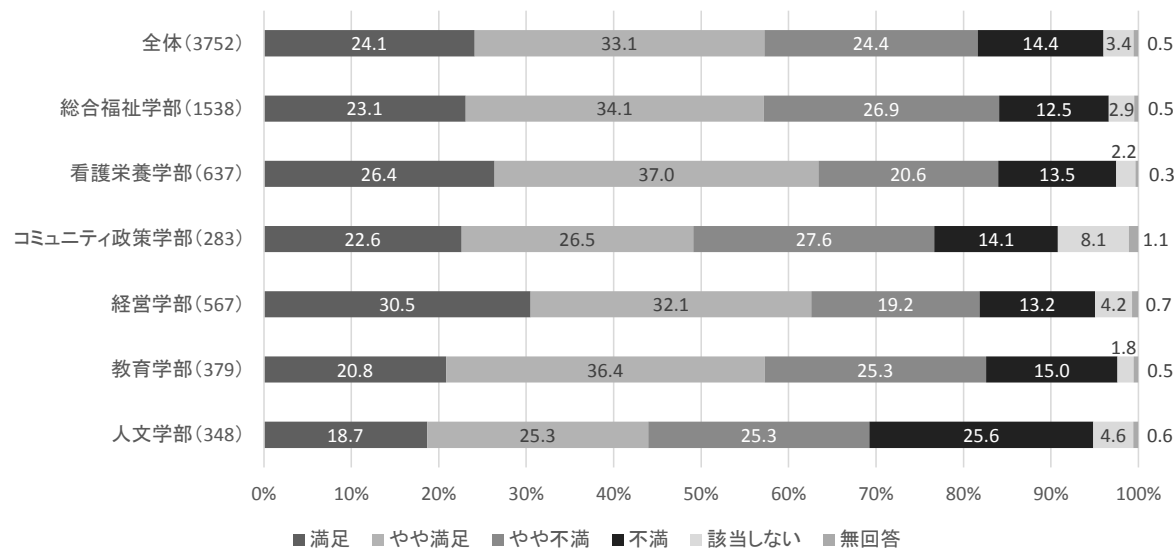


図9-10 利用できるパソコンの台数(学部別)

11) 食堂の快適さ

食堂の満足は約半数

食堂の快適さについて、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体では53.6%であった。

学部別の「満足」もしくは「やや満足」の割合をみると、総合福祉学部54.4%、看護栄養学部63.1%、コミュニティ政策学部48.1%、経営学部52.5%、教育学部56.7%、人文学部34.8%であった。前回調査では、経営学部が「やや不満」「不満」の割合が55.5%であったが、今回の調査では、41.8%となり、13.7%減少した。

また、今回の調査では、総合福祉学部、看護栄養学部、経営学部、教育学部は満足傾向の学生が半数を超えているのに対し、コミュニティ政策学部、人文学部に関しては、半数以下である。人文学部では不満（「やや不満」と「不満」）の割合が、59.8%と半数以上の学生が、「不満」を感じていることがわかった。（図9－11）

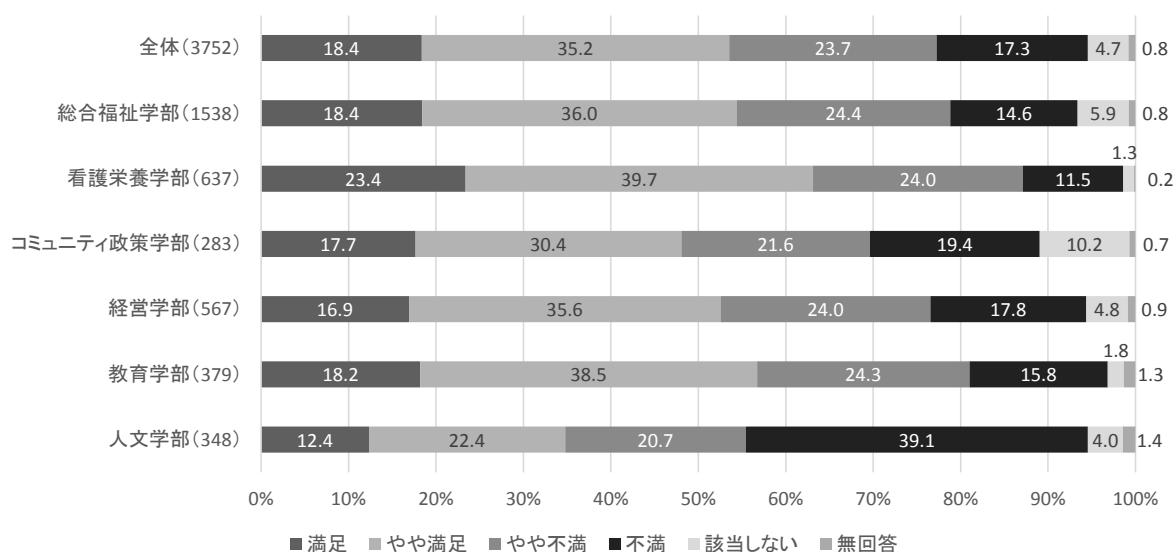
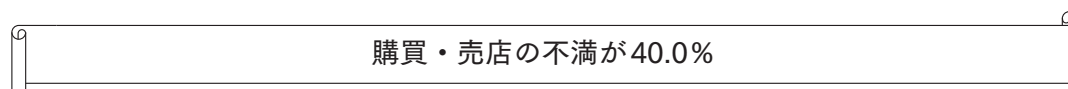


図9－11 食堂の快適さ（学部別）

12) 購買・売店の使いやすさ



購買・売店の使いやすさについて、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、全体で59.2%であった。

学部別で「満足」もしくは「やや満足」と回答した割合は、総合福祉学部63.2%、看護栄養学部47.7%、コミュニティ政策学部56.9%、経営学部62.4%、教育学部71.2%、人文学部46.2%であった。前回調査時には、看護栄養学部には売店はなかったため、今回は大幅に満足度が増加している。(図9-12)

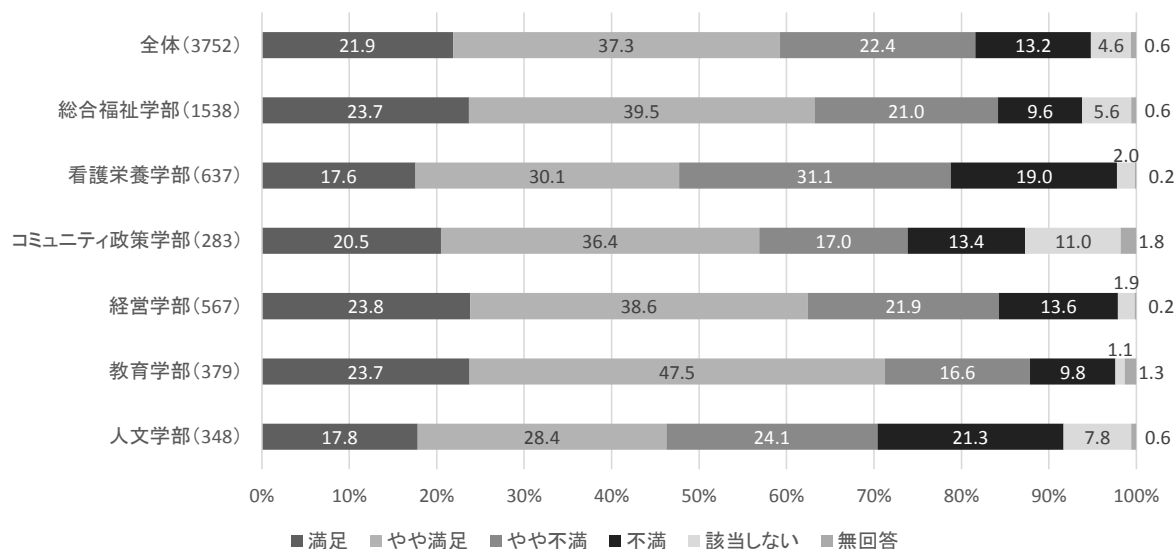


図9-12 購買・売店の使いやすさ (学部別)

13) サークル部室の使いやすさ

サークルの部室の使いやすさについて、「該当しない」と回答した割合が、大学全体では44.1%であった。「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で36.2%であった。

学部別で「満足」もしくは「やや満足」と最も多く回答した学部は教育学部で45.2%、一方、最も少なかったのは人文学部で23.0%であった。(図9-13)

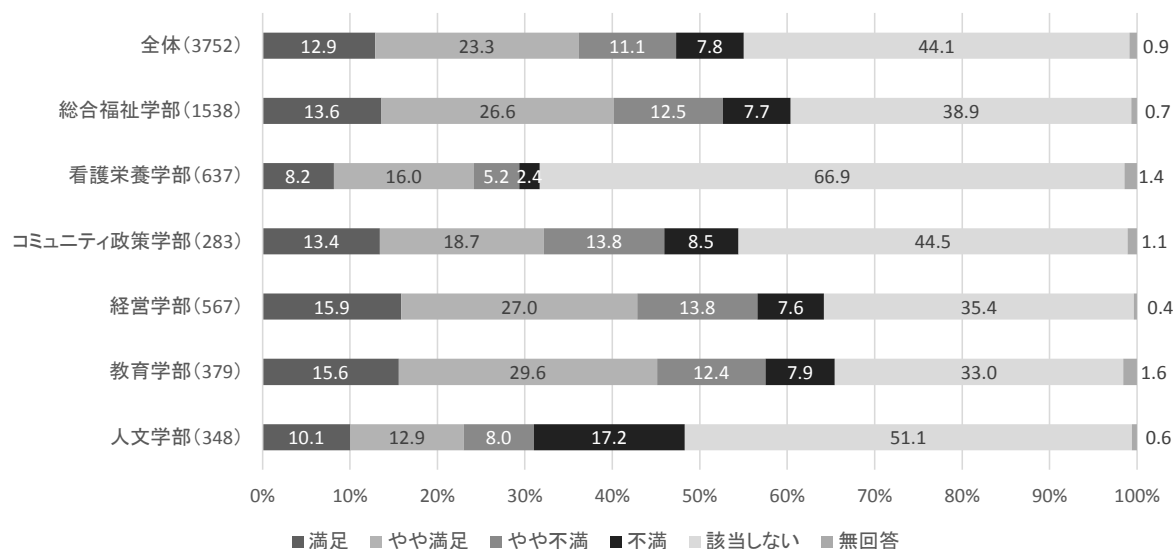


図9-13 サークル部室の使いやすさ (学部別)

14) 学生が自由に使えるスペース

学生が自由に使えるスペースについて、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体では61.7%であった。

学部別でみると、「満足」もしくは「やや満足」と最も多く回答した学部は、教育学部71.5%で、他のキャンパスも半数以上が「満足」もしくは「やや満足」と回答した。(図9-14)

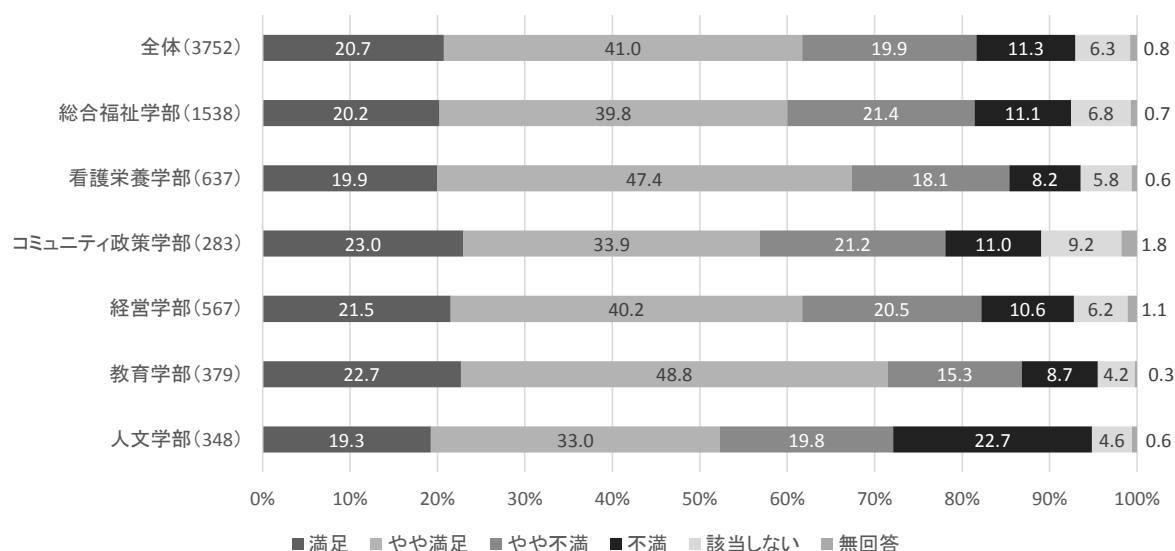


図9-14 学生が自由に使えるスペース (学部別)

15) グラウンド (更科・生実町・埼玉・坂戸) の使いやすさ

グラウンドの使いやすさについて、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で24.4%であった。「該当しない」と回答した割合が62.2%であったことを踏まえると、グラウンドを利用している学生の半数以上が満足傾向であった。

学部別では、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生が多かったのが、コミュニティ政策学部が31.5%、経営学部37.1%、教育学部が41.6%であった。

キャンパスによりグラウンドの環境条件が異なるため、学部別ではバラツキがみられた。(図9-15)

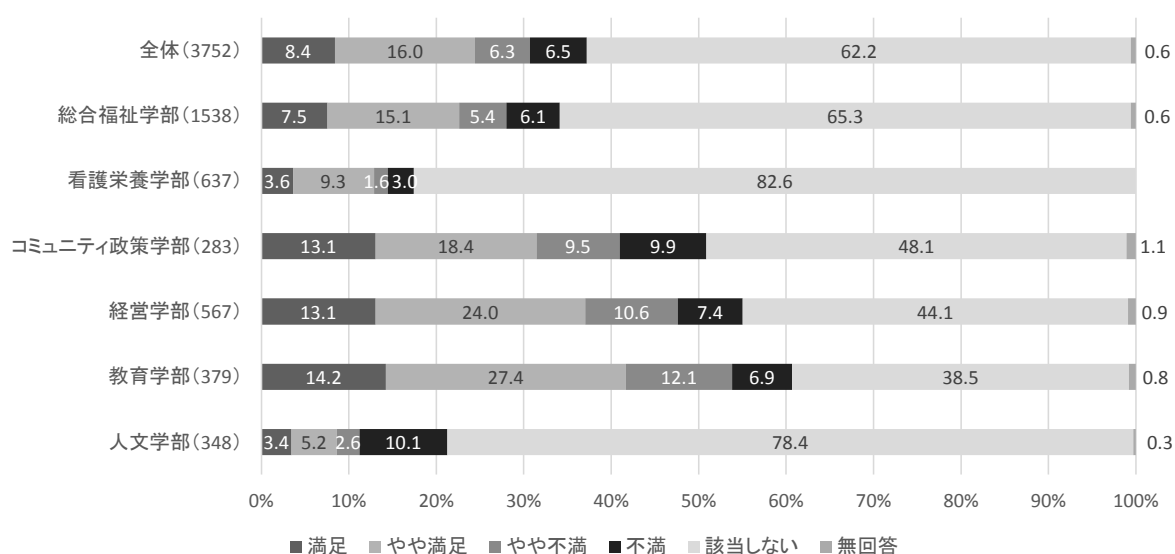
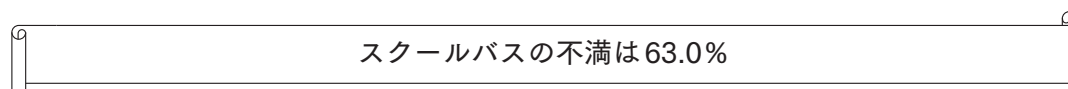


図9-15 グラウンドの使いやすさ (学部別)

16) スクールバスの使いやすさ



スクールバスの使いやすさについて、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体で37.0%であった。学部別でバラツキがみられ、「満足」もしくは「やや満足」と回答した割合が多かったのが、総合福祉学部で53.6%であった。

総合福祉学部とコミュニティ政策学部は、「満足」「やや満足」の割合が半数を上回っているのに対し、他の学部では「やや不満」「不満」が半数を上回った。特に看護栄養学部は、「やや不満」「不満」の割合が79.1%と高かった。(図9-16)

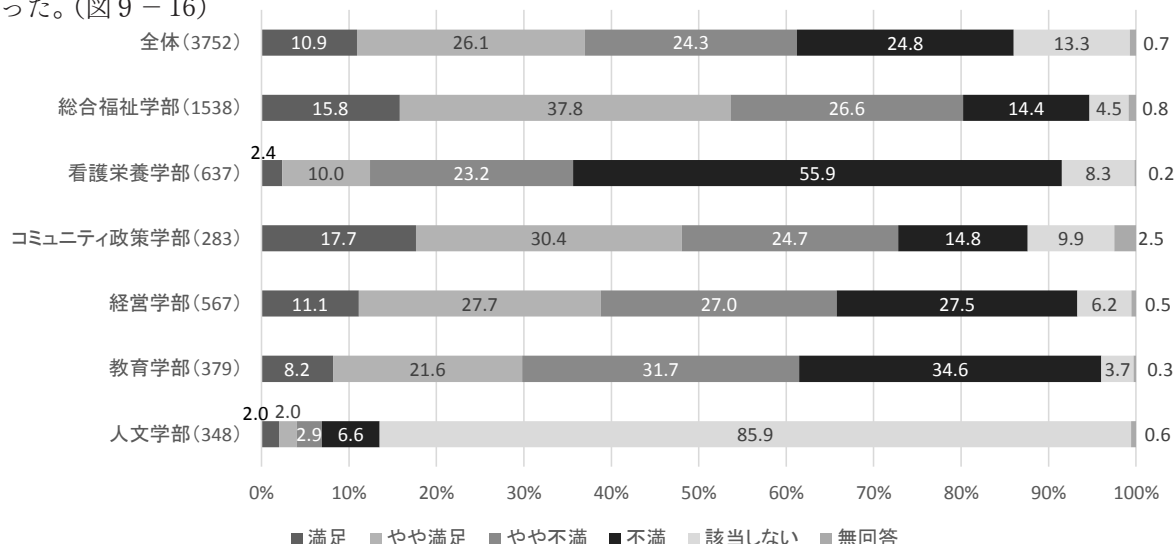


図9-16 スクールバスの使いやすさ(学部別)

17) 保健相談室(千葉・埼玉・東京)保健室(千葉第二)の利用しやすさ

保健相談室・保健室の利用について、ほとんどの学部で「該当しない」の割合が40.0%を超え、大学全体では43.3%であった。

「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合をみると、大学全体では45.8%であり、最も満足傾向の高い学部は看護栄養学部で、保健室を利用した学生72.6%のうち、62.8%が「満足」もしくは「やや満足」と回答した。(図9-17)

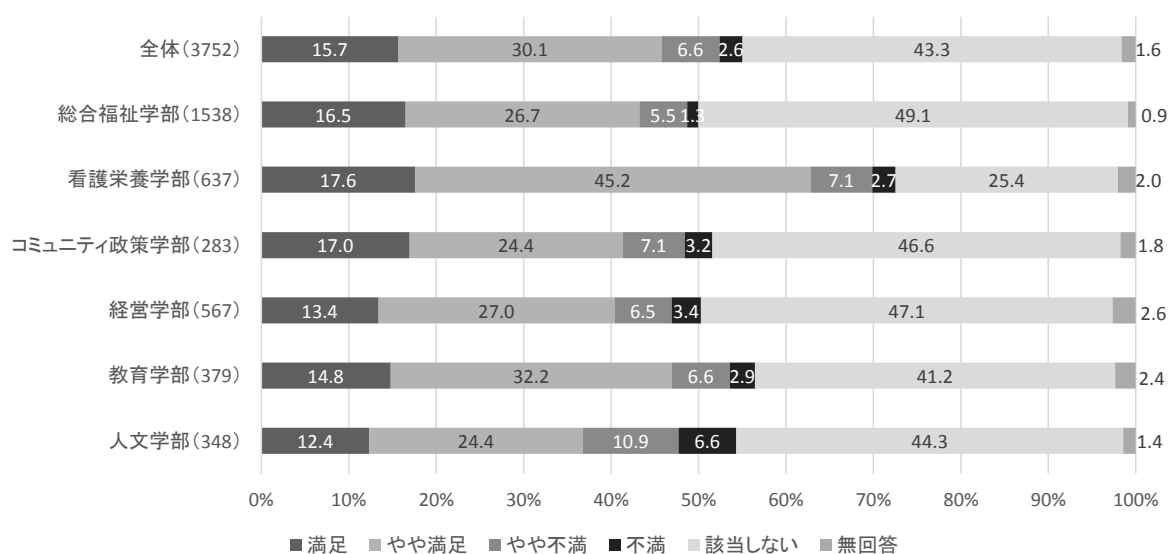


図9-17 保健相談室・保健室の利用しやすさ(学部別)

18) 学生相談室（千葉・第二・東京）学生総合相談支援室（埼玉）の利用しやすさ

学生相談室と学生総合相談支援室は、仕組みが異なるが、今回の調査では一括して分析を行った。どちらも「該当しない」が、大学全体では51.8%であった。

「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体では37.5%で、「やや不満」もしくは「不満」と回答した学生は、10.1%であった。学生相談室・学生総合相談支援室を利用した学生のおよそ70.0%が「満足」もしくは「やや満足」と回答した。

学部別でみると、どの学部も満足傾向であり、「満足」もしくは「やや満足」と回答した割合が最も多かったのは、経営学部で43.8%、最も少なかったのは人文学部で33.1%であった。（図9－18）

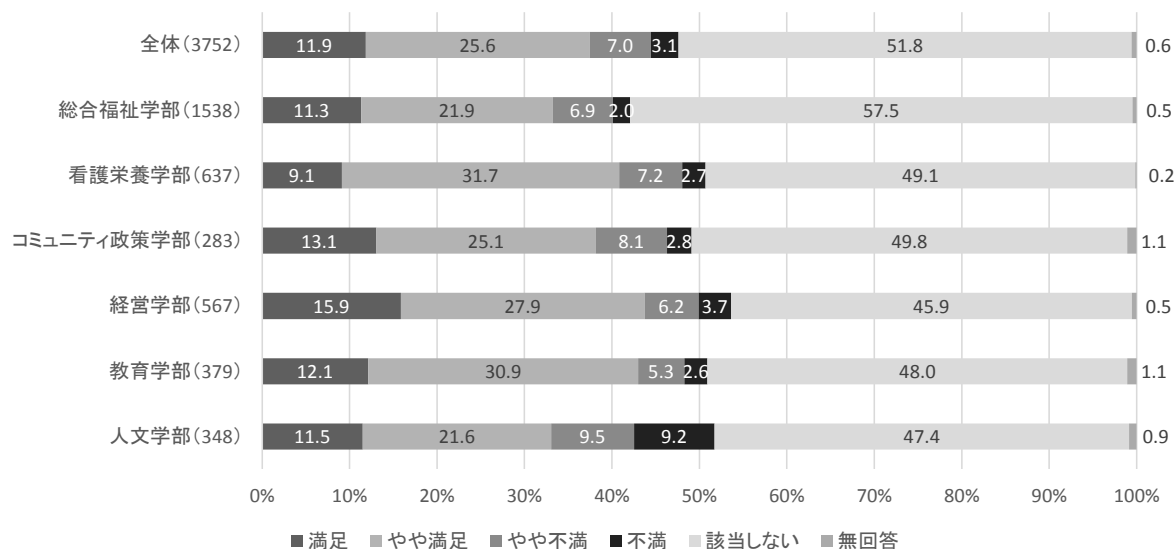


図9－18 学生相談室・学生総合相談支援室の利用しやすさ（学部別）

19) (総合) キャリア支援センター・室の利用しやすさ

(総合) キャリア支援センター・室の利用のしやすさについて、「該当しない」と回答した学生が、大学全体で39.1%であった。「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生は46.3%、「やや不満」もしくは「不満」と回答した学生は14.3%であった。

学部別にみると、教育学部が「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生が58.3%と最も多く、人文学部は32.7%と最も少なかった。（図9－19）

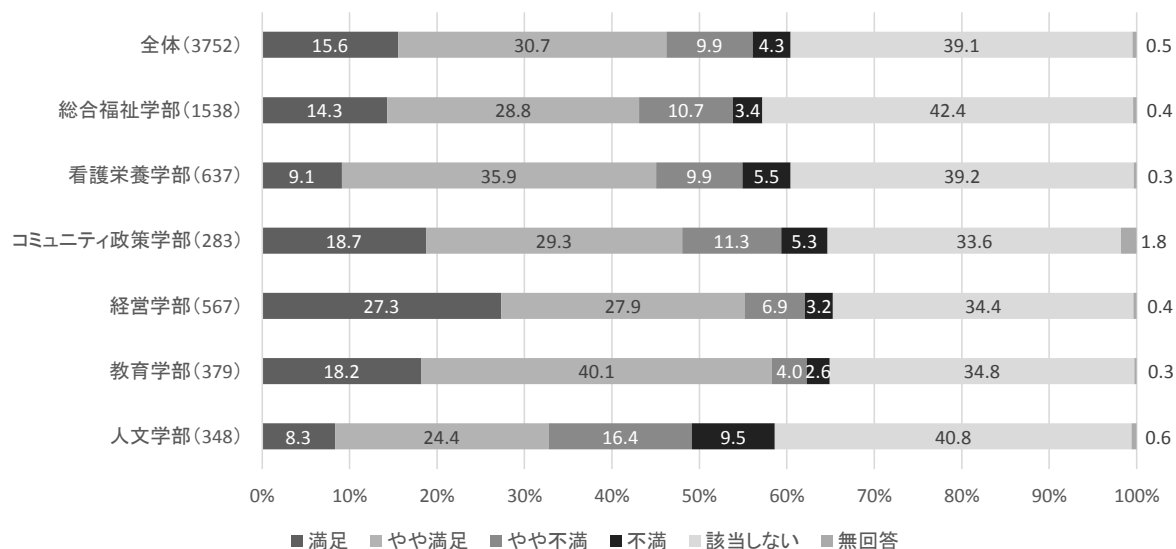


図9－19 (総合) キャリア支援センター・室の利用しやすさ（学部別）

20) (総合) キャリア支援センター・室の支援プログラム・就職イベント

(総合) キャリア支援センター・室の支援プログラム・就職イベントについて、「該当しない」と回答した学生が、大学全体では42.3%で、学部間に大きな差はなかった。

大学全体での「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生は、43.5%、「やや不満」もしくは「不満」と回答した学生は、13.3%であった。

「(総合) キャリア支援センター・室の利用しやすさ」とほぼ同様の傾向であった。(図9-20)

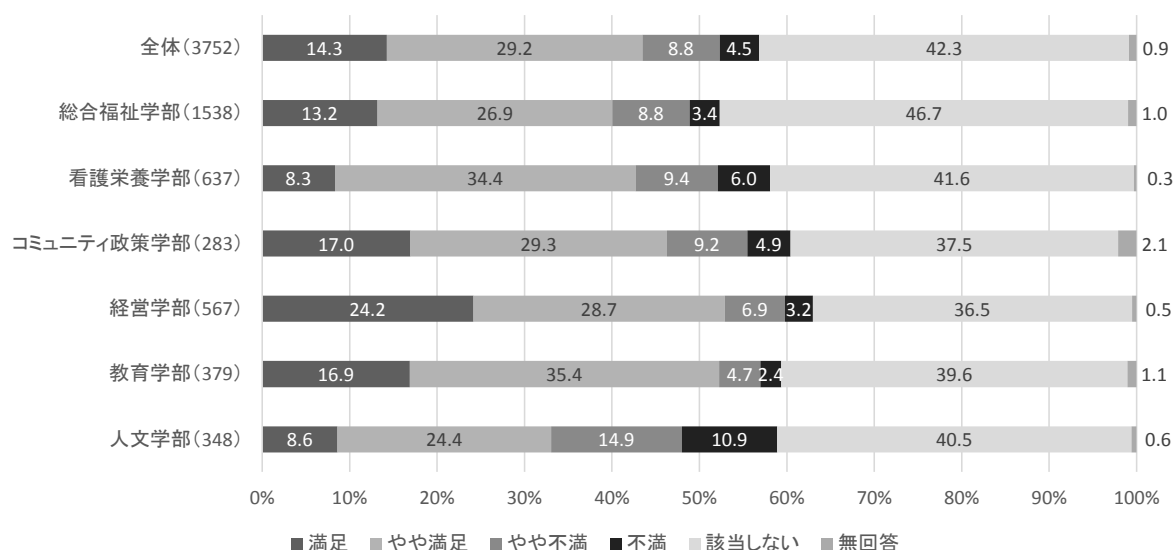


図9-20 (総合) キャリア支援センター・室のプログラム・イベント(学部別)

21) (総合) キャリア支援センター・室への要望や意見

(総合) キャリア支援センター・室に対して、自由記述で要望を尋ねた。国際コミュニケーション学部を除く全学部の288名の記述があり、そのうち要望や意見の記述は145名であった。

最も多かった意見は、「不適切・不満足な対応があった」と分類される内容が47名で、未内定者もいる時期に「内定もらった?と言われて傷ついた」や「アドバイスが責め立てられているように感じた」といった就職活動中のデリケートな心理状態への配慮不足な対応や、「得られる情報が不十分」、「専門職系の就職に対する知識不足を感じる」といった不満足な対応に関するもので、経営学部、教育学部以外の全学部で記載されていた。その次に多かったのは「利用しにくい、入りにくい」で26名に記載していた。「声をかけにくい」、「予約が難しい」、「利用法が説明不足でわかりにくい」、「対応時間が不適切」なども合わせると42名が「利用のしにくさ」を記載しており、そのほとんどが総合福祉学部、看護栄養学部のものであった。

(8) 淑徳大学への評価

大学に対し、およそ 70.0%が満足と評価

淑徳大学の評価について、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体では70.0%、総合福祉学部75.3%、看護栄養学部67.4%、コミュニティ政策学部68.2%、経営学部66.1%、教育学部70.2%、人文学部58.6%であり、学部により若干のバラツキがあるが、概ね満足していることが伺える。前回調査に比べ、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、大学全体では10.2%増加し、各学部では総合福祉学部11.1%、看護栄養学部17.4%、コミュニティ政策学部12.2%、経営学部12.1%増加した。教育学部も満足傾向ではあるが、前回調査に比べると6.5%減少している。

一方、「やや不満」もしくは「不満」と回答した学生の割合を見ると、大学全体28.4%、総合福祉学部23.1%、看護栄養学部32.0%、コミュニティ政策学部29.7%、経営学部31.8%、教育学部27.5%、人文学部39.7%となった。(図10-1)

学年別の満足度割合をみると、「満足」もしくは「やや満足」と回答した学生の割合は、1年次83.5%、2年次65.2%、3年次61.3%、4年次66.6%で、60.0%以上の学生が満足しており、特に1年次の満足度の割合が高く、80.0%以上が満足傾向であった。(図10-2)

学科別で「満足」もしくは「やや満足」の割合をみると、社会福祉学科が76.1%、教育福祉学科74.4%、実践心理学科74.6%、看護学科71.1%、栄養学科62.3%、コミュニティ政策学科68.2%、経営学科63.6%、観光経営学科69.1%、こども教育学科70.2%、表現学科49.2%、歴史学科70.9%であった。ほとんどの学科で60.0%が満足傾向であったのに対し、表現学科では「満足」もしくは「やや満足」の割合が49.2%と他学科に比べ、満足度が最も低かった。(図10-3)

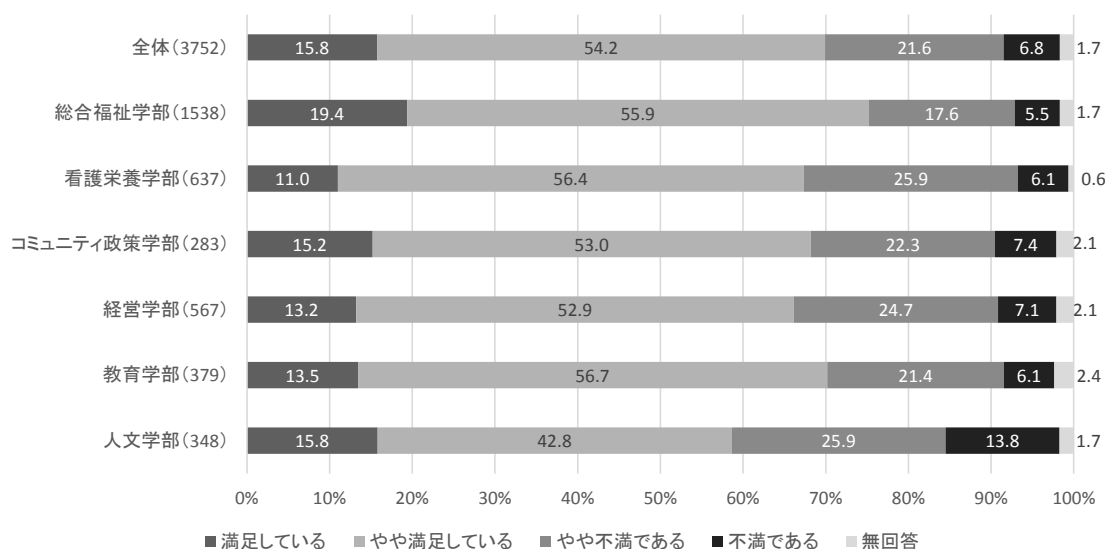


図10-1 淑徳大学の全体的評価（学部別）

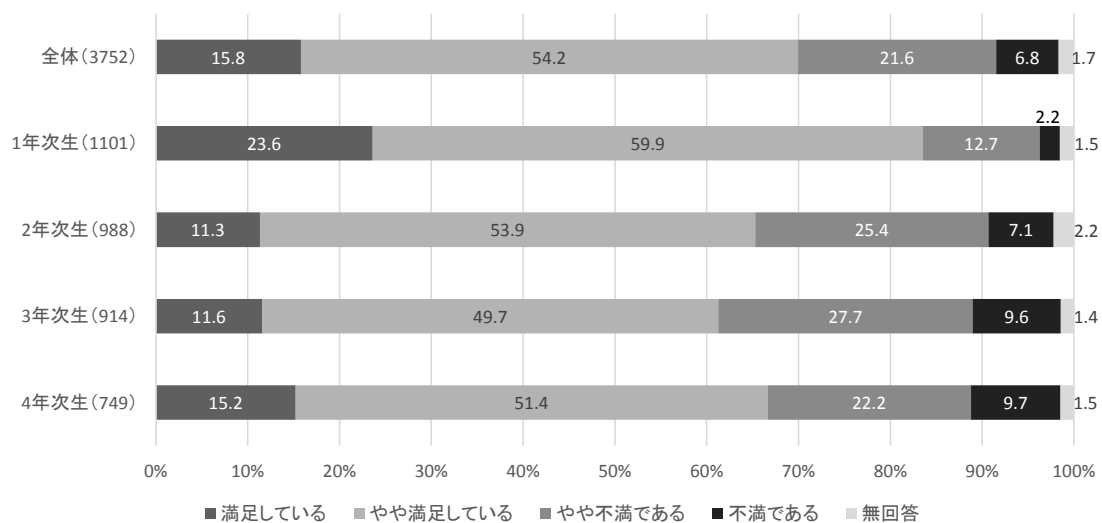


図10－2 淑徳大学の全体的評価（学年別）

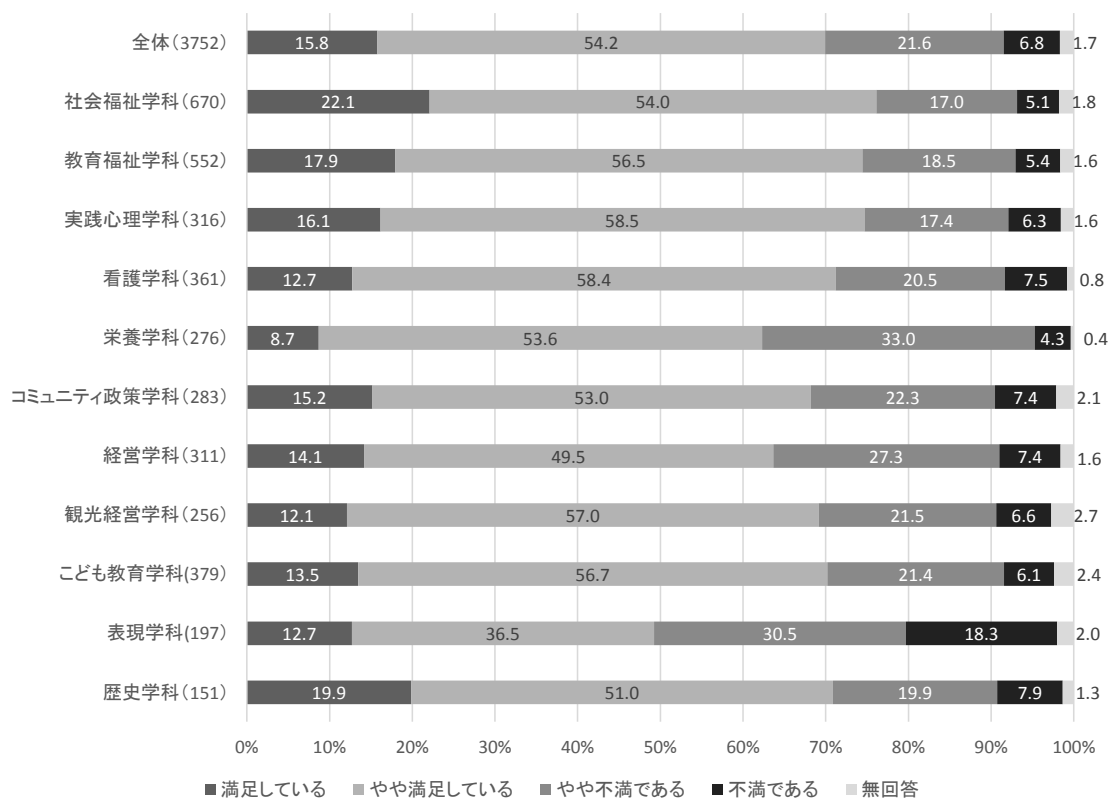


図10－3 淑徳大学の全体的評価（学科別）

(9) 全体的な評価

1) 淑徳大学の良い点、勧めたい点（自由回答から）

大学が用意した設問や選択肢に縛られない個々の学生の自由な意見を求めることを目的に自由回答の設問を設けた。有効回答者数3,752人のうち自由回答記入者は、1,109人(24.1%)であった。前回の調査時の自由回答記入者数881人(27.6%)より、回答数は増えているが割合としては、3.5%減っている。

回答者数の学部の内訳は、総合福祉学部380人(8.2%)、看護栄養学部206人(4.7%)、コミュニティ政策学部50人(1.1%)、経営学部226人(5.1%)、人文学部151人(3.3%)、教育学部96人(2.3%)となっている。

なお、明らかに良い点、勧めたい点ではないと判断できた記述内容が人文学部のみが存在したが分析上、除外した。少数であるが除外した設問の回答に沿わない回答の主な内容は、教職員の接遇に関すること、授業を含む教育内容に関することであった。

本設問の主な記述内容は、次の5点に大きく集約することができた。その記述内容は、以下の通りであった。

1点目は、「教員、職員に関すること」であった。教職員それぞれが熱心で親身に学生に関わってくれる、面談がよい、協力的、優しい、親切、サポートが丁寧、指導が手厚い、対応が細やか、学生と教員の距離が近く相談しやすい等である。

2点目は、「教育全般に関すること」であった。公務員、教員、国家試験対策が充実、実践的な学びができる、専門的な学習が充実している、実習先が充実している、グループワークが多い、座学以外の学びが充実、多種多様な学修プログラムがある、障がい学生も学びやすい環境、ボランティアや地域に出る機会が充実している、少人数で学びやすい、フィールドワークが充実、国家試験合格率、就職率が高い等である。

3点目は、「学内の友人に関すること」であった。皆が親切、優しい、温かい、仲間からの学びが大きい、個性的な人が多く、フレンドリーな雰囲気がある、自主性がある、先輩がよい、サークルが充実している、気配りがある等である。

4点目は、「建物、設備、備品に関すること」であった。キャンパスが広すぎず使いやすい、パソコンが使える、学食が安くて美味しい、校舎、施設(実習室等)が綺麗、清潔、清掃が行き届いている、スクールバスが便利、図書館、購買が充実、冷暖房の完備状況がよい等である。

5点目は、「その他」として、少数回答であるか、または、先の4点にも分類できないものを「その他」として表記したものが以下である。学内がアットホームな雰囲気がよい、共生の理念が身につく、共生の理念に基づいた教育がされている、ボランティア情報が充実している、リラックスできる空間が多い、通学が便利、自然が豊か、学祖を大切にしている等である。

2) 淑徳大学への要望、意見（自由回答から）

(9) 1) に続き、大学への要望、意見についても自由回答の設問を設けた。有効回答者3,752人のうち「要望、意見」の自由回答数は1,174人(31.3%)であり、「淑徳大学の良い点、勧めたい点」の自由回答者より多かったが、前回調査の40.7%より9.4%減少している。

回答者数の学部別内訳は、総合福祉学部377人(24.5%)、看護栄養学部286人(42.5%)、コミュニティ政策学部63人(22.2%)、経営学部140人(24.7%)、教育学部140人(24.7%)、人文学部169人(48.6%)で、看護栄養学部と人文学部の割合が高かった。

本設問に対する主な記載内容は、次の4点に集約することができた。

1点目は「施設(施設管理を含む)、設備、備品に関すること」である。このうちもっとも多く記載されていたのはスクールバスに関する要望、意見で、バスの運行本数、運行時間や運行間隔に関すること、バス停留所の場所に関する意見が多かった。次に多いのは食堂、学食に関するもので、スペースが狭い、値段が高いなどの意見があった。また、建物間の距離が遠い、ロッカー室が狭い、その他の設備の改善を希望する意見、インターネット環境に関する意見などがあったが、これらの記載は学部によって差が大きかった。

2点目は「教育全般に関すること」で授業の内容、方法に関すること、キャップ制への意見、公欠の扱いに関する意見、そのほかの事務手続きや事務連絡に関すること、カリキュラムや時間割に関することなどであった。

3点目は「教員、職員に関すること」で教職員の学生への対応や関わり方、教職員間の連携などについての記載があった。

4点目は「その他」として学費が高いとする意見、学費の使い方への意見、学生同士のマナーの問題、学校からの連絡についてなどであった。

なお、自由回答の結果は、「自由回答報告書」としてまとめ、期間を設けて各キャンパスで閲覧可能とする予定になっている。

Ⅲ.「第 7 回淑徳大学学生生活実態調査」調査票

本学では、平成5年より4年毎に学生生活実態調査を実施しており、今年は7回目になります。

この調査は、淑徳大学で学ぶ皆さんが、どのような学生生活を送っているのかということを明らかにし、大学の設備、厚生施設や教職員の対応などを改善していくことを目的としています。

調査の趣旨をご理解の上、ぜひご協力をお願いします。

回答の結果は、すべて統計的に処理されますので、個人が特定される形で公表されたり、この回答の結果によってあなたが何らかの不利益を受けたりすることは絶対にありません。

回答は平成29年7月13日までをお願いします。

【このアンケートについての問合せ先】

淑徳大学学生生活実態調査委員会

jittai7@soc.shukutoku.ac.jp

問合せの回答は、基本的にS-Naviにて配信します。

★ 設問はQ12まであります。5～10分程度で回答できるかと思います。

回答は、各選択肢の前のボックスやボタンをチェックするか、

具体的な記入を求める設問には、必要事項を記入してお答え下さい。

回答を忘れたところがないか再度ご確認の上、

最後に、アンケートの終わりにある「回答」ボタンを忘れずにクリックして下さい。

なお、回答を途中で保存する場合にも、「回答」ボタンをクリックして下さい。

回答期間中であれば、追加・修正が可能です。

1. あなた自身の事について

Q1. 淑徳大学を選んだ動機について、あてはまるものをすべて選んで下さい。(複数回答可)

- ☐ 所属する学科・コースの専門的な勉強をしたかった
- ☐ 専門以外の科目も勉強できると思った
- ☐ 免許や資格を取得できると思った
- ☐ 将来つきたい仕事に必要な勉強がしたかった
- ☐ 実践的・実学的な教育方法に魅力を感じた
- ☐ 自分の勉強したい科目がある
- ☐ 伝統や建学の精神に魅力を感じた
- ☐ 海外留学・研修に魅力を感じた
- ☐ サークル活動や課外講座に魅力を感じた
- ☐ キャンパスの施設、設備が気に入った
- ☐ 就職率が高い、もしくは就職先が良い
- ☐ オープンキャンパスに参加し、印象が良かった
- ☐ 高校や予備校の先生にすすめられた
- ☐ 友人や先輩にすすめられた
- ☐ 家族や親類にすすめられた
- ☐ 自分の学力に合っていた
- ☐ 自宅から通学できる
- ☐ その他 (↓全角45文字以内で具体的に書いて下さい)

Q2. 淑徳大学は、あなたにとって

- ☐ 第1志望だった ☐ 第2志望だった ☐ 第3志望以下だった

Q3. 現在、あなたは、アルバイトをしていますか。

- ☐ している ☐ していない

以下のQ3SQ1～Q3SQ4の設問は、Q3で「している」を選択した方のみ回答して下さい。

それ以外の方はQ4に進んで下さい。

Q3SQ1 大学の授業のある期間(4月～7月)の、週あたりの平均アルバイト時間はどれくらいですか。

- ☐ 10時間未満 ☐ 10時間～19時間 ☐ 20時間～29時間 ☐ 30時間以上

Q3SQ2 現在行っているアルバイトはどれですか。あてはまるものをすべて選んで下さい。(複数回答可)

- ☐ 塾講師・家庭教師など
☐ 事務(一般事務、データ入力やパソコン入力等)
☐ 販売
☐ 飲食業
☐ 販売・飲食業を除く軽労働(清掃、警備、配達等)
☐ 重労働・危険作業(引越スタッフ、倉庫整理)
☐ 特殊技能(プログラミング、インストラクター)
☐ 医療・福祉施設
☐ その他 (↓全角45文字以内で具体的に書いて下さい)

Q3SQ3 アルバイト代は月額で約いくらですか(複数のアルバイトをしている人は合計額)。

- ☐ 1万円未満 ☐ 1～4万円未満 ☐ 4～7万円未満 ☐ 7～10万円未満 ☐ 10万円以上

Q3SQ4 アルバイト代の主な使い道について、あてはまるものをすべて選んで下さい。(複数回答可)

- | | | |
|---|-----------------------------------|------------------------------------|
| ☐ 学費 | ☐ 生活費 | ☐ 通学費(定期代等) |
| ☐ 課外活動 | ☐ ダブルスクール費 | ☐ 旅行・レジャー |
| ☐ 携帯電話・インターネット代 | ☐ 交際費 | ☐ 留学 |
| ☐ その他 (↓全角45文字以内で具体的に書いて下さい) | | |

Q4. あなたは、スマートフォンやタブレットを持っていますか

- ☐ 持っている ☐ 持っていない

Q5. 現在住んでいる家に自分が使用できるパソコンがありますか

- ☐ ある ☐ ない

Q6. あなたの日常生活の習慣や傾向についてお聞きます。

a)朝食を毎日食っている

- ☐ あてはまる ☐ ややあてはまる ☐ あまりあてはまらない ☐ あてはまらない

b)運動の習慣がある

- ☐ あてはまる ☐ ややあてはまる ☐ あまりあてはまらない ☐ あてはまらない

c)喫煙の習慣がある

- ☐ あてはまる ☐ ややあてはまる ☐ あまりあてはまらない ☐ あてはまらない

d)飲酒の習慣がある

- ☐ あてはまる ☐ ややあてはまる ☐ あまりあてはまらない ☐ あてはまらない

Q7. あなたの友人関係および教職員との関係についてお聞きます。

a) 大学で新しい友人ができた

☐ あてはまる ☐ ややあてはまる ☐ あまりあてはまらない ☐ あてはまらない

b) 大学内の友人関係に悩みがある

☐ あてはまる ☐ ややあてはまる ☐ あまりあてはまらない ☐ あてはまらない

c) 大学内に、悩み事を相談できる友人がいる

☐ あてはまる ☐ ややあてはまる ☐ あまりあてはまらない ☐ あてはまらない

d) 大学内に、悩み事を相談できる教職員がいる

☐ あてはまる ☐ ややあてはまる ☐ あまりあてはまらない ☐ あてはまらない

Q8. 大学にハラスメントの相談窓口があることを知っていますか。

☐ 知っている ☐ 知らない

2. 大学の教育環境や設備・サービスについて

Q9 本学の教育環境などについてのあなたの満足度をお聞きいたします。

(なお、設備やサービスなどに関して、あなたがこれまでに一度も利用していない場合は、「該当しない」を選択して下さい。)

1) 授業の時間割

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

2) 履修指導・履修相談

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

3) 教員の学生に対する対応

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

4) オフィス・アワーの利用しやすさ

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

5) 事務局職員の学生に対する対応

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

6) 図書館(室)の蔵書

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

7) 図書館(室)の開館時間

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

8) 図書館(室)の座席数・設備(パソコン・ビデオ・コピー等)

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

9) パソコンが設置されている教室の利用時間

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

10) 利用できるパソコンの台数

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

11) 食堂の快適さ

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

12) 購買・売店の使いやすさ

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

13) サークルの部室の使いやすさ

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

14) 学生が自由に使えるスペース

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

15) グラウンド(更科・生実町・埼玉・坂戸)の使いやすさ

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

16) スクールバスの使いやすさ

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

17) 保健相談室(千葉・埼玉・東京)・保健室(千葉第2)の利用しやすさ

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

18) 学生相談室(千葉・千葉第2・東京)・学生総合相談支援室(埼玉)の利用しやすさ

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

19) (総合)キャリア支援センター・室の利用しやすさ

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

20) (総合)キャリア支援センター・室の支援プログラム・就職イベント

☐ 満足 ☐ やや満足 ☐ やや不満 ☐ 不満 ☐ 該当しない

21) (総合)キャリア支援センター・室への要望や意見があれば自由に書いて下さい。

(全角250文字以内)

--

Q10 あなたは、全体的に、淑徳大学をどう評価していますか。

☐ 満足している ☐ やや満足している ☐ やや不満である ☐ 不満である

Q11 淑徳大学の良い点、人に勧めたい点などを自由に書いて下さい。

(全角500文字以内)

--

Q12 淑徳大学への要望や意見を自由に書いて下さい。

(全角500文字以内)

--

【ご協力、有り難うございました。】

終わりに

1993年以来4年ごとに行われてきた学生生活実態調査は、今回で7回目となりました。

今回の調査にあたっては、この1、2年、授業アンケートが全学統一の形で実施されるようになったほか、「学修行動調査」、「授業時間以外の学修に関する調査」など、学修に関する状況を把握し、改善するための種々の調査が行われてきましたので、それらの調査との重複をできるだけ避け、本調査の本来の目的である「淑徳大学に学ぶ学生の方々が、日頃本学の教育等に対してどのように考え、どのような学生生活を送っているか等を把握し、今後の淑徳大学のあり方を考える上での基礎データを収集すること」に焦点を当てた基本的な質問にしばった調査とすることを方針といたしました。また、次年度行われる大学認証評価の資料ともなることを考え、迅速に集計し結果を報告できるようにと、はじめてS-NaviによるWeb上での回答方式を採用いたしました。そのため、回答者数の確保が心配され、学生の方々には繰り返し回答を促すこともいたしましたが、結果的に7学部の3,752人(81.4%)の学生の方々から回答をいただき、前回調査より9.2%も回答率が上昇しました。回答に協力していただいた学生の皆さんと、調査実施にご協力いただいた教職員の皆さまに心より感謝申し上げます。

多数の学生から回答をいただけたことから、本報告書の内容は、本学の学生生活を正しく反映している可能性が高いものとなったと思われます。今後の学生生活改善のため、全学、学部、学科それぞれのレベルでの取り組みに、役立てていただけることを願っております。なお、本報告書は前回報告書と同じく、記述編のみを刊行し、自由回答については、各学部で閲覧していただく形といたしました。自由回答には、学部ごとに特色ある回答も記載されておりますので、ぜひご覧いただき、隅々まで行き届いた改善に資するものとしていただければ幸いです。

最後に、限られた時間の中で、調査票の作成および報告書の執筆に多大なご尽力をいただいた第7回学生生活実態調査委員会の委員諸氏に、心より感謝申し上げます。

第7回淑徳大学学生生活実態調査委員会
委員長 鈴木 恵理子

第7回 淑徳大学学生生活実態調査委員会

委員長 鈴木恵理子 看護栄養学部 教授

副委員長 米村 美奈 総合福祉学部 教授

委員 桑原 節子 看護栄養学部 教授

堀木 美告 経営学部 准教授

杉原 麻美 人文学部 准教授

中西 規之 千葉キャンパス IR推進室 課長

袴田 泉 千葉キャンパス 大学事務部

加藤 尚彦 千葉第二キャンパス 事務部 課長補佐

加固いづみ 埼玉キャンパス 学事部 学生総合相談支援室 課長補佐

久保田勝巳 東京キャンパス キャリア支援室

第7回 淑徳大学学生生活実態調査報告書

発行 平成29年11月30日

発行者 第7回 淑徳大学学生生活実態調査委員会
〒260-8701 千葉市中央区大巖寺町200
電話 043-265-7331

印刷製本 株式会社 白鷗社
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨1-14-10